

Beyond SDGs

The 67th annual conference of Japan Human Factors and Ergonomics Society

日本人間工学会第67回大会

PROGRAM BOOK



開催日程：2026年5月23日(土)～24日(日)

会場：名古屋市立大学滝子キャンパス

主催：(一社) 日本人間工学会・第67回大会実行委員会

一般社団法人 日本人間工学会
第 67 回大会

Beyond SDGs - 持続可能な社会を支える人間工学

開催期間：2026年5月23日(土)～24日(日)

会 場：名古屋市立大学 滝子キャンパス

大会長：横山 清子（名古屋市立大学）

大会長挨拶

— Welcome messages —

日本人間工学会第 67 回大会
大会長 横山 清子
Conference Chair: Kiyoko Yokoyama
(Professor, Graduate School of Data Science,
Nagoya City University, Japan)



第 67 回大会の大会長を拜命いたしました名古屋市立大学の横山清子です。大会テーマは「Beyond SDGs –持続可能な社会を支える人間工学」といたしました。今回の大会では SDGs が国連総会で採択されて 10 年が経過した今、人間工学として目標達成のためにこれまで何をしてきたかを振り返り、また目標達成の期限としている 2030 年の先に持続可能なより良い世界が発展していくために人間工学がどう貢献できるかを考えていただける大会となることを意図いたしました。

基調講演には、自然を尊重した作業設計 Green Ergonomics を提唱しておられる IEA(国際人間工学会)会長をお迎えします。大会テーマに合わせたセッションの構成やシンポジウムの企画などを工夫いたしました。

名古屋は地理的には丁度日本の中央に位置します。新幹線でも航空機でも便利にお越しいただけます。「名古屋には目立った観光地が無い」と思っておられる方もいらっしゃるかもしれませんが、名古屋城、東山公園、徳川美術館、市政資料館、名古屋港水族館、科学館など、会場から地下鉄で移動できる範囲にお勧めできる場所が複数ございます。みそかつ、手羽先、ひつまぶしなど「なごやめし」を楽しんでいただくのも一案です。

本大会は、JES 東海支部が一丸となって準備し、皆様をお迎え致します。人間工学研究の最新情報を得る有意義な機会としていただけますと幸いです。

On behalf of the Steering Committee, I am delighted to extend a warm invitation to you for the upcoming 67th JES Conference. The theme for the conference is “Beyond SDGs – Ergonomics and Human Factors in Support of a Sustainable Society”. Now ten years have passed since the SDGs were adopted by the United Nations General Assembly, we have organized this conference with the intention of providing an opportunity to reflect on what we in the field of ergonomics have done to date to achieve these goals, and to consider how ergonomics can contribute to the development of a sustainable and better world beyond the 2030 deadline set for their achievement.

We are delighted to welcome the President of the IEA (International Ergonomics Association), Professor Andrew Thatcher, who advocates ‘Green Ergonomics’—a work design philosophy that respects nature—to deliver the keynote address. We have organized the sessions and planned the symposia to reflect the conference theme.

Geographically, Nagoya is situated right in the center of Japan. It is easily accessible by both the Shinkansen and air travel. Whilst some may think that ‘Nagoya lacks notable tourist attractions’, there are several recommended sites within easy reach of the venue by metro, including Nagoya Castle, Higashiyama Park, the Tokugawa Art Museum, the City Archives, Nagoya Port Aquarium and the Science Museum. Another option is to sample some ‘Nagoya-meshi’—local specialities such as miso-katsu, tebasaki and hitsumabushi.

The JES Tokai Branch has worked together to organize this conference and looks forward to welcoming you all. We hope it will prove a valuable opportunity to gain the latest insights into ergonomics research.

【大会テーマ (Theme)】

Beyond SDGs -持続可能な社会を支える人間工学

【開催日(Dates)】

2026年5月23日(土)～24日(日)

May 23 (Saturday) - May 24 (Sunday), 2026

【大会長 (Conference Chair)】

横山 清子 (名古屋市立大学大学院・データサイエンス研究科 教授)

Kiyoko Yokoyama (Professor, Graduate School of Data Science, Nagoya City University, Japan)

【会場 (Venue)】

名古屋市立大学滝子キャンパス (〒467-8501 愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑 1)

Nagoya City University, Takiko campus,

1 Yamano-hata, Mizuhocho, Mizuho-ku, Nagoya 467-8501

【公用語 (Official Languages)】

Japanese and English

日本語・英語

【内容 (Contents)】

社員総会、IEA 会長による基調講演、特別講演、一般講演、展示発表、国際・国内シンポジウム、若手・院生向け企画ワークショップ、ほか

Council Meeting, Special Lectures, Oral presentation, Symposiums, Workshop for Young Researchers and Graduate Students, etc.

【意見交換会 (懇親会) (Official Banquet)】

日時：5月23日(土) 18:00～19:30

会場：名古屋市立大学滝子キャンパス 学生会館 (食堂・生協)

会費：一般 6,000 円, 学生 4,500 円

Date: May 23, 18:00 - 19:30

Venue: Nagoya City University Takiko Campus Student Union Building (Cafeteria & Co-op)

Fee: General 6,000 JPY / Student 4,500 JPY

【大会で発表される方へ (Requests for speakers)】

1. 一般演題 (Oral Presentation)

- 発表形式は口頭講演に限ります。
- 発表者へはビジュアルエイドとしてプロジェクタ (HDMI 接続ケーブル) を用意いたします。
- 発表用のパソコンはご用意いたしますが、PCのご持参を推奨します。
- 発表時間は、質疑応答を含めて1件15分程度 (発表10分、質疑応答4分、入れ替え1分) です。
- 発表スライドには利益相反の開示を含めてください。

2. 公募シンポジウム (Symposium)

- 1件につき原則60分の枠と会場を提供します。
- ビジュアルエイドとしてプロジェクタ (HDMI 接続ケーブル) を用意します。
- 発表用のパソコンはご用意いたしますが、PCのご持参を推奨します。
- 発表スライドは日本語または英語でご準備するよう事前にお伝え願います (日本語・英語併記も可)。
- 登壇者の発表スライドには利益相反の開示を含めてください。

3. 大会講演集の公開および著作権 (Copyright transfer agreement)

- 大会講演集は科学技術振興機構 (J-STAGE) にて大会期間終了後に公開されます。公開データは申込時の登録情報原稿をもとに大会事務局が作成します。なお、大会講演集に掲載される講演集原稿などの著作権は、一般社団法人日本人間工学会に帰属するものとします。詳細は本学会著作権規程をご確認ください。規程は本学会ホームページから入手できます。また、公開された講演集は技術的な問題により著者都合で削除はできませんので、予めご了承ください。
- The proceedings will be made publicly available on the Japan Science and Technology Agency (J-STAGE) after the conference period. The secretariat of the conference will prepare the publicly available data based on the manuscript registered at the time of application. The copyright of the abstracts and other materials published in the Proceedings belongs to the Japan Human Factors and Ergonomics Society.

一般演題のセッション割り振りについて

本大会の一般演題セッションでは、大会テーマ「Beyond SDGs -持続可能な社会を支える人間工学」を踏まえ、下記2つの観点から演題分類をしています。

- ① SEGs：2022年に人間工学会 SDGs 検討委員会から提案された「SEGs」による分類
 (参考：持続可能な人間工学目標 2040 (SEGs2040) SDGs 時代に求められる人間工学未来アクション・ビジョン 2022 日本人間工学会 SDGs 検討委員会
https://www.ergonomics.jp/official/wp-content/uploads/2022/07/segs2040_jcs_220618.pdf)

SDGs	SEGs	SEGsの目標
3 持続可能な消費と生産	1 Well-being	システムズアプローチですべての人の健康・福祉増進の仕組みを作る
4 質の高い教育をみんなに	2 Education	人間工学教育の裾野を広げ複雑な社会生態システムの課題を解決する
5 ジェンダー平等を推進しよう	3 Gender equality	ジェンダー平等に資する人間工学応用を社会常識にする
7 持続可能なエネルギー	4 Diverse sustainability	システムズアプローチを活用して全方位調和型の持続可能な社会基盤をつくる
8 豊かになりながら持続可能な成長を	5 Socio-economic value	人間工学で新たな働きがい・新たな社会経済価値を創造する
9 産業と労働者の持続可能な発展を	6 Harmonization and innovation	人間工学で産業・技術革新×人々の調和を図る
11 持続可能な住み続けられるまちづくりを	7 Infrastructure	人間工学で住み続けられるまちをつくる
12 つくる責任 つかう責任	8 Circular system	循環型社会システムを人間工学で実装する
17 パートナーシップで目標を達成しよう	9 Multi-stakeholder partnerships	ステークホルダーの相互作用をデザインしSDGs課題を解決する

- ② 人間工学の扱う応用領域の大分類「労働、生活、移動、コミュニケーション」
 (参考：拡大する人間工学の対象領域ーシステム人間工学モデルー(Ergonomics Initiatives at an International Level, 2008、<https://www.ergonomics.jp/outline/role.html>)。)



日本人間工学会第 67 回大会 実行委員会

【大会長】	横山 清子	名古屋市立大学
【副大会長】	藤岡 英二	株式会社アイシン
【実行委員長】	松岡 敏生	大妻女子大学
【事務局長】	長谷川智之	名古屋市立大学
【実行委員】 (50 音順)		
	青木 宏文	名古屋大学
	池浦 良淳	三重大学
	市川 陽子	三重県立看護大学
	榎原 毅	産業医科大学
	大西 範和	三重県立看護大学
	大平 肇子	三重県立看護大学
	小木曾 隆	株式会社アイシン
	神田 幸治	名古屋工業大学
	岸田 孝弥	大原記念労働科学研究所
	斎藤 真	星城大学
	坂田 大	トヨタ紡織株式会社
	庄司 直人	朝日大学
	常見 麻芙	医療法人 山下病院
	内藤 章江	椋山女学園大学
	中川 志信	名古屋市立大学
	藤掛 和広	中京大学
	藤巻 吾朗	岐阜県生活技術研究所
	堀 寧	名古屋市立大学
	松河 剛司	愛知工業大学
	松崎 一平	医療法人 山下病院
	松原 貴史	豊田工業高等専門学校
	宮崎 由樹	中京大学
	山根 基	愛知みずほ大学
	吉田 智幸	トヨタ自動車株式会社
	渡津 弘大	トヨタ自動車株式会社

Steering Committee Members

Conference Chair	Kiyoko Yokoyama	(Nagoya City University)
Vice Conference Chair	Eiji Fujioka	(Aisin Corporation)
Steering committee chair	Toshio Matsuoka	(Otsuma Women's University)
Secretary general	Tomoyuki Hasegawa	(Nagoya City University)

Steering Committee Members

Akie Naito	(Sugiyama Jogakuen University)
Goroh Fujimaki	(Gifu Prefectural Human Life Technology Research Institute)
Hirofumi Aoki	(Nagoya University)
Ippei Matsuzaki	(Yamashita Hospital)
Kazuhiro Fujikake	(Chukyo University)
Kohta Watatsu	(Toyota Motor Corporation)
Koji Kanda	(Nagoya Institute of Technology)
Koya Kishida	(The Ohara Memorial Institute for Science of Labour)
Mafu Tsunemi	(Yamashita Hospital)
Masaru Sakata	(Toyota Boshoku Corporation)
Motoi Yamane	(Aichi Mizuho College)
Motoko Ohira	(Mie Prefectural College of Nursing)
Naoto Shoji	(Asahi University)
Norikazu Ohnishi	(Mie Prefectural College of Nursing)
Ryojun Ikeura	(Mie University)
Shin Saito	(Seijoh University)
Shinobu Nakagawa	(Nagoya City University)
Takashi Matsubara	(National Institute of Technology, Toyota College)
Takashi Ogiso	(Aisin Corporation)
Takeshi Ebara	(University of Occupational and Environmental Health)
Tomoyuki Yoshida	(Toyota Motor Corporation)
Tsuyoshi Matsuokawa	(Aichi Institute of Technology)
Yasuki Hori	(Nagoya City University)
Yoko Ichikawa	(Mie Prefectural College of Nursing)
Yuki Miyazaki	(Chukyo University)

大会出展企業一覧

インタークロス株式会社

エースポイントシステムズ株式会社

SCSK 株式会社

株式会社アイシン

株式会社島津製作所

株式会社ソフィア・サイエンティフィック

株式会社ソリッドレイ研究所

株式会社ダートフィッシュ・ジャパン

株式会社 ナックイメージテクノロジー

株式会社ノビテック

株式会社フォーアシスト

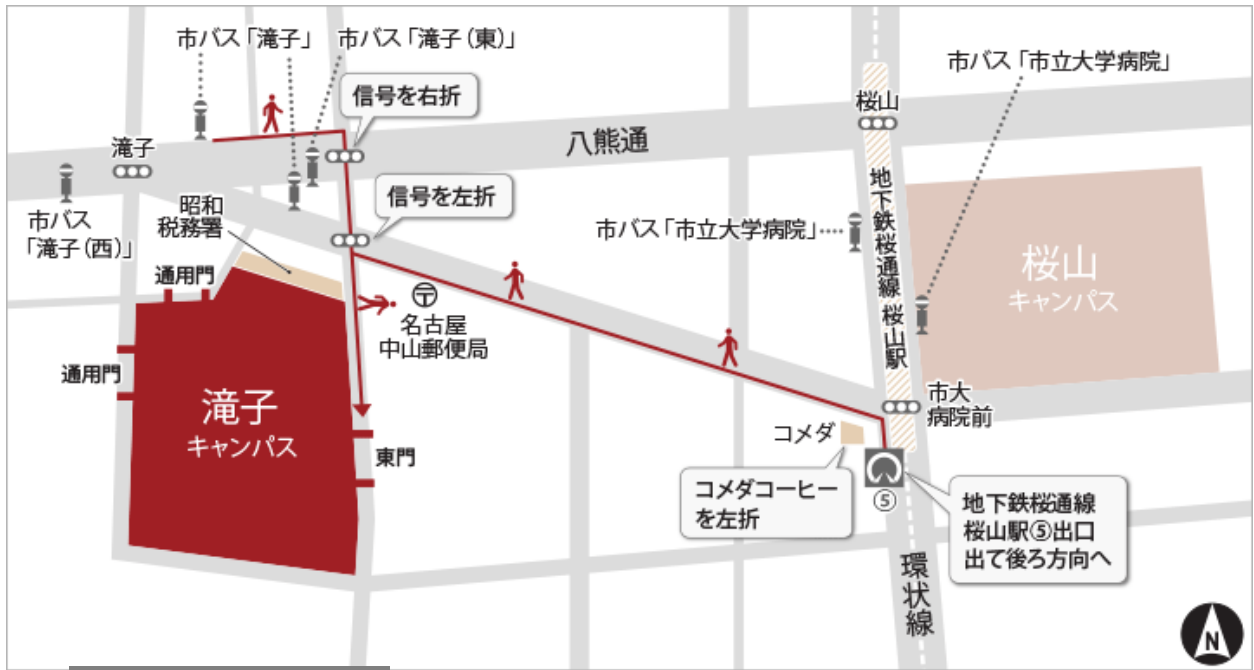
株式会社フォーラムエイト

株式会社メソン

スギノエイチ株式会社

東海光学株式会社

paiza 株式会社

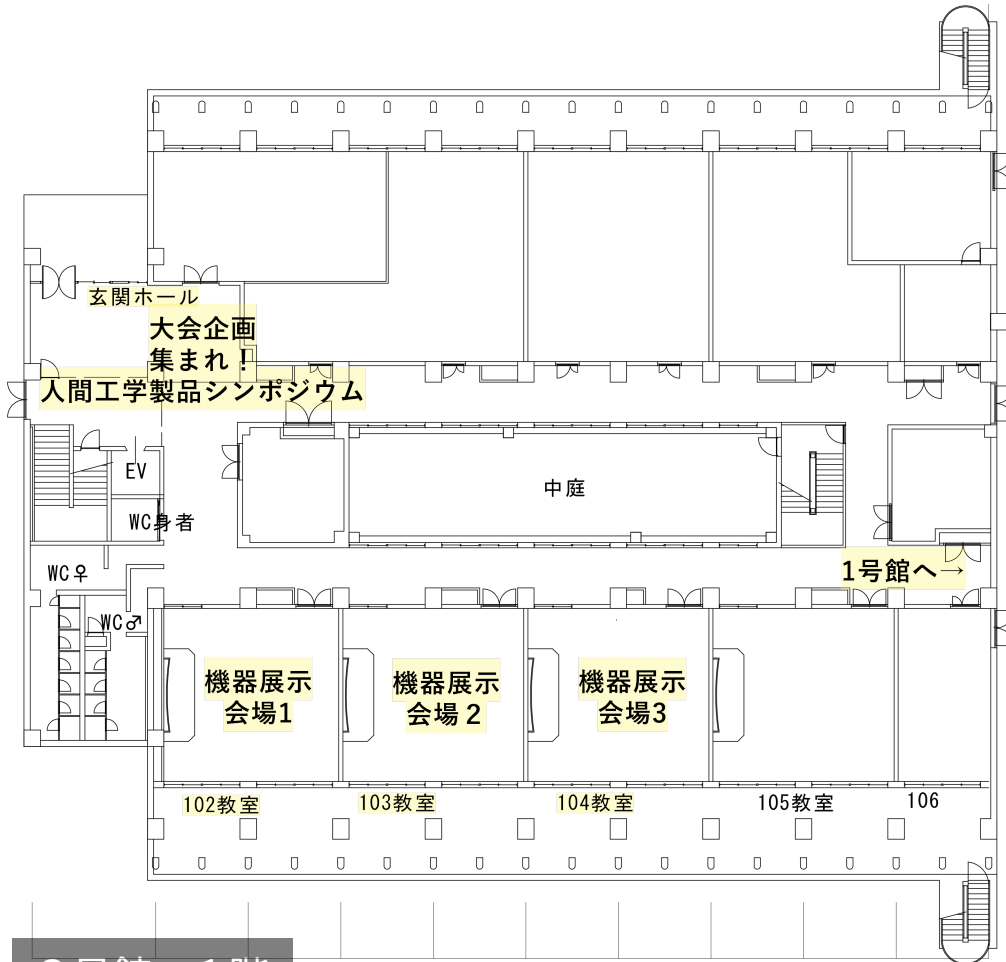


アクセスマップ

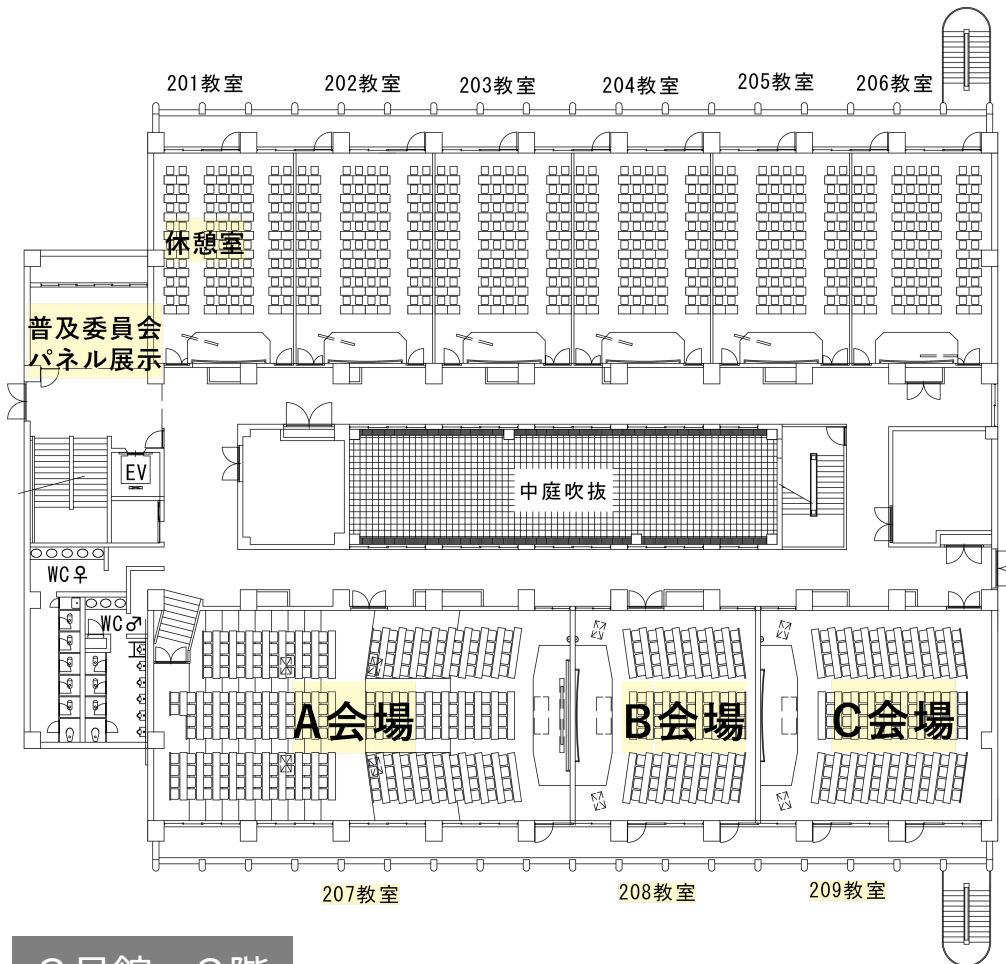


キャンパスマップ

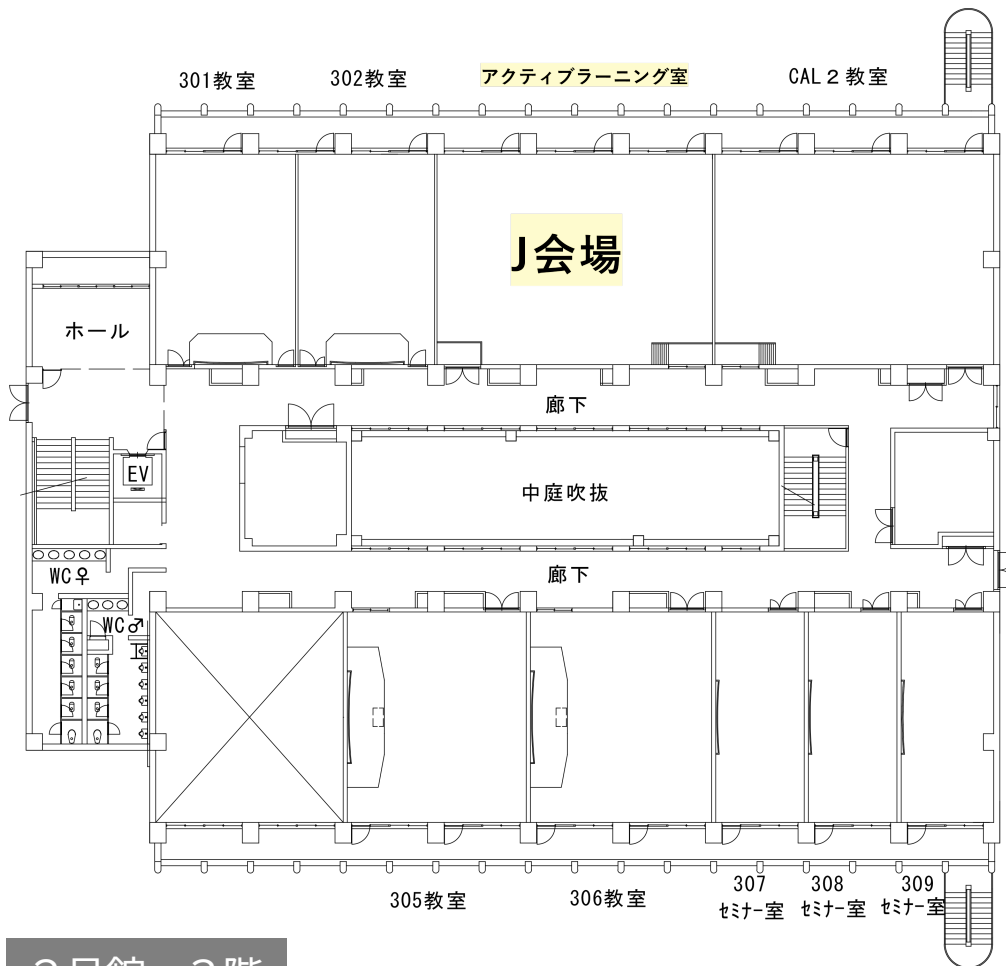
講演会場 2号館 受付 1号館



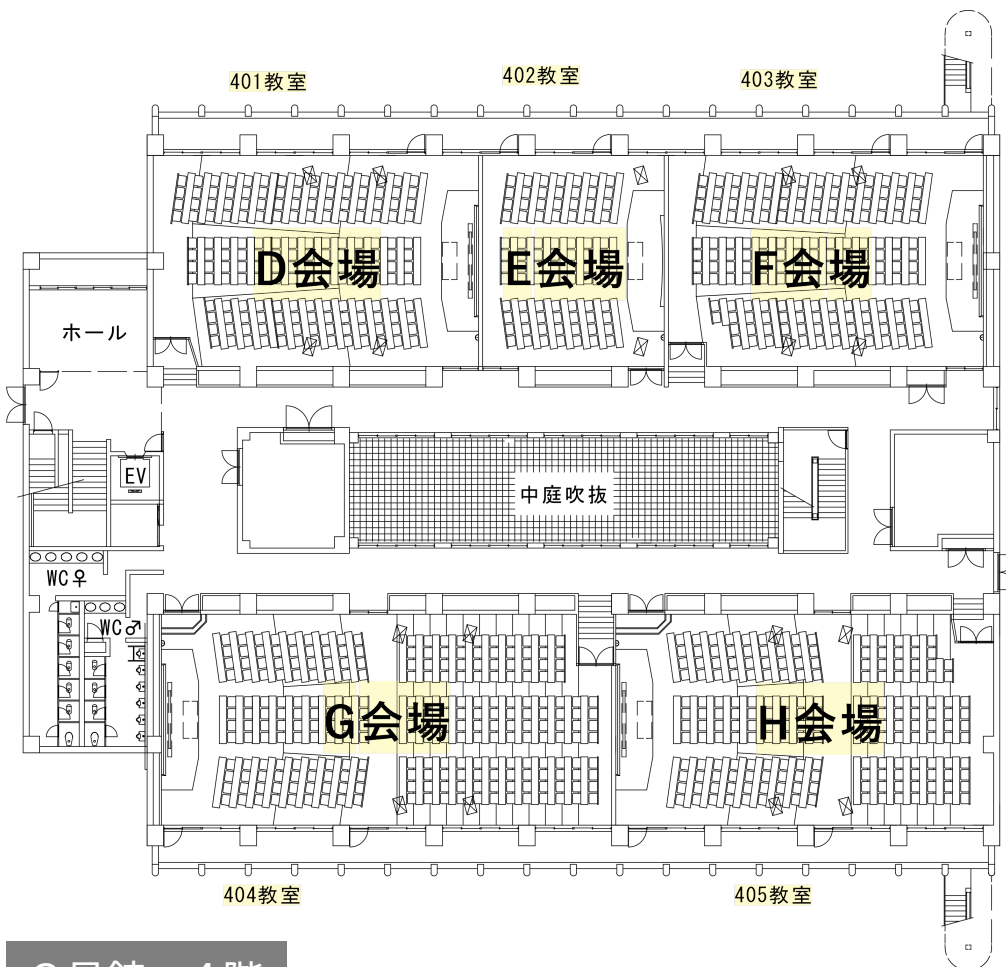
2号館 1階



2号館 2階



2号館 3階



2号館 4階

大会スケジュール (Program Overview)

5月23日 (土)

		9:00		10:00		11:00		12:00		13:00		14:00		15:00		16:00		17:00		18:00		19:00	
会場	階	開 会 式		1A1 SEGs1: システムズアプローチですべての 人の健康・福祉増進の仕組みを作る (生活)		1B1 SEGs2: 人間工学教育の裾野を広げ複雑な 社会生態システムの課題を解決する		S1 シンポジウム1		1E1 SEGs1-9 (移動)		1F1 SEGs1: システムズアプローチですべての 人の健康・福祉増進の仕組みを作る (生活)		1G1 SEGs6: 人間工学で産業・技術革新 ×人々の調和を図る		S3 シンポジウム3		1A2 SEGs1: システムズア プローチですべての人の健 康・福祉増進の仕組みを作 る (移動)		1A3 SEGs1: システムズアプロ ーチですべての人の健康・福祉 増進の仕組みを作る (移動)		1A3 SEGs1: システムズアプロ ーチですべての人の健康・福祉 増進の仕組みを作る (移動)	
A会場	2階	207教室								KL1 基調講演		OS1 学会企画 JAXA											
B会場	2階	208教室																S4 シンポジウム4 編集委員会企画		1B2 SEGs7: 人間工学で住み続け られる暮らしをつくる			
C会場	2階	209教室																		1C1 SEGs1: システムズアプローチです べての人の健康・福祉増進の仕組 みを作る (移動)			
D会場	4階	401教室																		1D1 SEGs5: 人間工学で新たな 働きがい・新たな社会経済 価値を創造する		1D2 SEGs1.5	
E会場	4階	402教室																		1E2 SEGs1.2,3,6,7 (生活)			
F会場	4階	403教室																		1F2 SEGs6: 人間工学で産業・技 術革新×人々の調和を図 る (移動)		1F3 SEGs6: 人間工学で産業・技 術革新×人々の調和を図る (移動)	
G会場	4階	404教室										GM 社員総会								1G2 SEGs1: システムズア プローチですべての人の健 康・福祉増進の仕組みを作 る (移動)		1G3 SEGs1.2,3,4,6 (生活)	
H会場	4階	405教室																		S5 シンポジウム5			
J会場	3階	アクティブ ラーニング室																					
休憩室	2階	201教室																					
イベント会場	1階	玄関ホール																					
機器展示場	1階	102教室 103教室 104教室																					
懇親会場		学生会館 (食堂・生協)																					
																						意見交換会 (懇親会)	

大会スケジュール (Program Overview)

5月24日 (日)

会場	階	部屋名	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
A会場	2階	207教室	2A1 SEGs1: システムズアプロローチですべての人の健康・福祉増進の仕組みを作る (移動)	2A2 SEGs1: システムズアプロローチですべての人の健康・福祉増進の仕組みを作る	OS2 学会企画シンポジウム	2A3 SEGs1: システムズアプロローチですべての人の健康・福祉増進の仕組みを作る (生活)							
			2B1 SEGs6: 人間工学で産業・技術革新×人々の調和を図る	2B2 SEGs6: 人間工学で産業・技術革新×人々の調和を図る (生活)	2B3 SEGs6: 人間工学で産業・技術革新×人々の調和を図る (コミュニケーション)	2B4 SEGs6: 人間工学で産業・技術革新×人々の調和を図る (生活)							
B会場	2階	208教室	2C1 SEGs2,4,5,6,7,8,9 (生活)	2C2 SEGs1,5,6,9 (生活)	2C3 SEGs1,2,4,9 (生活)	2C4 SEGs1,3,5,6,7,9 (労働)							
C会場	2階	209教室											
D会場	4階	401教室	2D1 SEGs2: 人間工学教育の視野を広げ複雑な社会生働システムの課題を解決する										
E会場	4階	402教室											
F会場	4階	403教室	2F1 SEGs1,2,4,5,6 (労働)	2F2 SEGs1,2,3,4,5,6,9 (労働)	2F3 SEGs1,4,5,6,9 (労働)	2F4 SEGs2,4,5,6,9 (労働)							
			S6 シンポジウム6	S7 シンポジウム7 MSDs研究部企画	S8 シンポジウム8								
H会場	4階	405教室	2H1 SEGs1,2,5,6,7,8 (移動)	2H2 SEGs1,5,6,7 (移動)	2H3 SEGs1,3,5,6,7,9 (コミュニケーション)	2H4 SEGs1,4,5,6,7,8,9 (コミュニケーション)							
I会場	3階	アクティブ ラーニング室			L 若手支援セミナー	S9 シンポジウム9 普及委員会企画							
休憩室	2階	201教室											
イベント会場	1階	玄関ホール											
機器展示場	1階	102教室 103教室 104教室	機器展示										
懇親会場		学生会館 (食堂・生協)											

大会企画 (Organized Special Session)

【大会企画 (Organized Special Session)】

1. 基調講演 (Keynote)

5月23日(土) 13:10 – 14:40 A会場

HFE and the SDGs: promoting health, wellbeing, and effectiveness for Agenda 2050



Prof. Andrew Thatcher

(President of the IEA / University of the Witwatersrand)

Prof. Takashi Toriizuka

(President of the JES / Nihon University)

Andrew Thatcher is a professor and chair of industrial/organisational psychology at the University of the Witwatersrand, Johannesburg where he also obtained his PhD in 2003. He is currently president of the International Ergonomics and Human Factors Association (IEA) and is Co-Editor-in-Chief of the journal “Ergonomics”. His research interests explore the intersections between HFE, sustainability, and the future of work. He has received numerous national and international awards for this work including the 2023/2024 NSTF-South-32 Green Economy Award and the 2025 Hal Hendrick Distinguished International Colleague Award from the HFES.

2. 大会企画シンポジウム (Organized Symposium)

5月23日(土) 14:40 – 16:40 2号館玄関ホール

集まれ！人間工学製品シンポジウム

- 現場の課題をカタチに、そして社会実装へ -

第67回大会実行委員会、企業活動推進委員会、広報委員会が連携し、人間工学の知見を活用して開発された実製品・プロトタイプ・サービスを持ち寄り、「どのような現場課題から生まれたのか」、「人間工学的視点がどのように設計に反映されたのか」、「製品化・実装・普及の過程で何が課題となったのか」など「実践の取り組み」を共有・議論する企画を開催いたします。

「試作段階」も含めたリアルな人間工学製品に光を当て、新たな連携を創出します。

3. 学会本部企画シンポジウム

5月24日（日）13:00 – 14:30 A会場

エイジフレンドリーな職場づくりと人間工学

オーガナイザー：持丸 正明（産業技術総合研究所）

2026年4月より国の「高年齢者の労働災害防止のための指針」が施行され、高齢になっても働き続けられる職場作りが企業の努力義務になりました。60歳以上の国内労働者は1213万人(2025年)で過去最多となり、少子高齢化・人手不足により今後ますます高齢労働者の活躍が期待されています。その一方で、60歳以上の高年齢者の労働災害は全体の3割を占め、転倒や腰痛といった行動災害においては50代以上の女性で著しく発生率（度数率）が上昇するなど、課題も多く残ります。本シンポジウムでは、指針作成を担当された厚生労働省から指針概要および策定の背景（高齢労働者の動向、労災動向および指針概要）について紹介頂き、高年齢者も含めた全方位型の対策を長年積み重ねてきている企業としてトヨタ自動車より取り組みを紹介いただき、高齢労働対策で課題と感じていることを話題提供いただきます。そして、国の指針の検討会座長を務めた産業医科大学・榎原毅先生に高年齢者の行動災害（転倒・腰痛）に関する国際的な動向を紹介いただき、フロアとの意見交換を行います。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

1. 高年齢者の労働災害防止のための指針の概要及び指針策定の背景について

岩澤 俊輔（厚生労働省労働基準局安全衛生部安全課・主任中央産業安全専門官）

<講演要旨>



2026年4月1日より改正労働安全衛生法が施行され、高年齢者の労働災害防止を図るために、必要な措置を講じることが事業者の努力義務となり、事業者が講ずべき措置に関し、「高年齢者の労働災害防止のための指針（エイジフレンドリー指針）」が公表されている。法律改正の背景として、高年齢者は他の世代と比べて労働災害の発生率が相対的に高く、年々上昇する傾向にあることや、災害が起きた際の休業期間が長いという特徴があること等が挙げられる。本講演では法律改正や指針策定の背景及び指針の概要について概説する。

【略歴】2003年 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻修了。同年 厚生労働省入省。'16年 東京労働局労働基準部安全課長、'18年 厚生労働省労働基準局安全衛生部計画課長補佐、'20年 同部労働衛生課産業保健支援室長補佐、'23年 同部安全課長補佐を経て、'26年より現職。

2. トヨタ自動車におけるダイバーシティ全方位型による安全衛生対策

浅野 朝郎 (トヨタ自動車株式会社安全健康推進部・主幹)

<講演要旨>



トヨタ自動車は、生産性向上を計る手法として「トヨタ生産方式」が世の中では、よく知られているが、その基となる基本の考え方には、「人間尊重、質実剛健、・・・」が根底に流れている。生産性向上を目指す事は、「全従業員に対し無理なく、間違えなく、つらい作業が無く、作業間違えや品質不良が発生した時は、躊躇なくその場面で生産ラインが停止する仕組みとすること」が求められてきた。それは、労働者の男女、年代問わず、多様な労働者が、夜勤の時でも生産が安全で、無理せず快適に作業従事出来るよう

うにと、ダイバーシティ全方位型の対策が求められ推進してきた。仕事で求められる能力と個々人の労働者の能力の適合を評価するために定期的な体力測定を実施しアセスメントと対策を導入するなど、多様な労働者の能力を十分に発揮できる環境を整備してきた。それらの経験を基に、今回新たに制定された「高年齢者の労働災害防止のための指針」で取り組むべきポイントや今後の課題について紹介したい。

【略歴】1992年トヨタ自動車株式会社入社、国内事業所の製造技術員、本社安全衛生推進部、国内事業場支援、海外事業場設立支援(中国、北米、欧州、豪亜中近東、他)、安全衛生健康分野、生産性・品質向上・統括・製造運営分野支援を実施。最近は行政機関等との連携を実施。(改正化学物質講習会、続・他)

3. 高年齢者の行動災害(転倒・腰痛)に関する国際的な動向

榎原 毅 (産業医科大学人間工学研究室・教授)

<講演要旨>



高年齢者の労働災害は、転倒や腰痛といった行動災害が多くを占める。北欧やカナダでは腰痛といった作業関連運動器疾患と転倒(滑り、躓き、踏み外し、通称 STF)対策は統合して扱われている。職域で扱う転倒リスクツールもカナダでは利用されており、ハザード・リスク評価を行う枠組みが整備されている。英国 HSE (Health and Safety Executive) も現場点検型チェックリストを提供するなど、職場環境改善の活動を活性化させるリスク評価活動の枠組みが提案されている。様々な国際動向を俯瞰

し、新たな行動災害アプローチの方向性について私見を紹介する。

【略歴】2005年名古屋市立大学大学院医学研究科満期退学。同年・同学労働生活・環境保健学分野助手・助教、'09年講師、'19年准教授を経て、'22年より現職。国際人間工学連合理事('21~'24)、日本人間工学会理事長('26年5月~)、人間工学専門家認定機構長('24~'26)、人間工学誌編集委員長('20~'24)、Journal of Occupational Health 編集委員長('26~) ほか。

5月23日(土) May 23 (Saturday)

KL1**基調講演****A会場(207)****13:10-14:40****HFE and the SDGs: promoting health, wellbeing, and effectiveness for Agenda 2050**

Andrew Thatcher(President of the IEA / University of the Witwatersrand)

Takashi Toriizuka(President of the JES / Nihon University)

OS1**【学会本部企画】JAXA研究助成の紹介****A会場(207)****14:40-15:10****S1****【シンポジウム1】****子どものデジタル機器利用の現状と対策****D会場(401)****10:30-11:30****01 学校と家庭でのデジタル機器利用と健康支援**○柴田 隆史¹(1. 東海大学)**02 小・中学校における適切な視距離の維持に関する教育実践研究の事例**○板垣 翔大¹、柴田 隆史²、堀田 龍也³(1. 宮城教育大学 教育学部、2. 東海大学 情報理工学部、3. 東京学芸大学 教職大学院)**03 若年層とAI・AV・ARVR端末****-タブレット・スマートフォンからスマートグラス・スマートコンタクトレンズへ-**○久武 雄三¹(1. 静岡大学イノベーション社会連携推進機構)**S3****【シンポジウム3】****自動車／モビリティのUXと提供価値、
そして利用意欲****H会場(405)****10:00-12:00****自動車コックピットのUXと提供価値、そして利用意欲**○石橋 基範¹、羽深 太郎²、丸山 雅紀³、藤掛 和広⁴、北崎 智之⁵(1. 日本大学、2. 昭和女子大学、3. (株)本田技術研究所、4. 中京大学、5. (株)U'eyes Design)

S4	【シンポジウム4 編集委員会企画】 人間工学研究・実践の論文執筆入門 —執筆の基礎とAI時代の論文作成—	B会場(208) 15:30-16:30
-----------	---	---------------------------------------

○村木 里志¹、近井 学²(1. 九州大学大学院芸術工学研究院、2. 国立研究開発法人産業技術総合研究所)

S5	【シンポジウム5】 人間工学の発展に理学療法・リハビリテーションは 如何にかかわれるか	H会場(405) 16:00-17:00
-----------	--	---------------------------------------

01 人間工学の発展に理学療法・リハビリテーションは如何にかかわれるか

○内山 靖¹、春名 弘²、辻 修嗣³(1. 名古屋大学、2. 北海道科学大学、3. 大阪行岡医療大学)

02 人間工学からみた補装具とバイオメカニクス

○春名 弘¹、昆 恵介¹、佐藤 健斗¹(1. 北海道科学大学)

03 人間工学と産業理学療法の接点 -作業関連性筋骨格系障害予防の視点から-

○辻 修嗣¹(1. 大阪行岡医療大学)

S13	人間工学製品シンポジウム グッドプラクティス・データベース紹介	J会場 (3Fアクティブラーニング) 10:45-11:45
------------	--	---

○松崎 一平¹、松岡 敏生²、藤掛 和広³、横山 詔常⁴、井出 有紀子⁵、吉田 智幸⁶、青木 宏文⁷(1. 山下病院、2. 三重県工業研究所、3. 中京大学、4. 広島県立総合技術研究所、5. NEC、6. トヨタ自動車株式会社、7. 名古屋大学)

S14	集まれ！人間工学製品シンポジウム —現場の課題をカタチに、そして社会実装へ—	イベント会場 (1F玄関ホール) 14:40-16:40
------------	---	---

1A1

SEGs1：システムズアプローチですべての人の健康・福祉増進の仕組みを作る（生活）

10:15-11:45

A会場
(207)

座長 山根 基 (愛知みずほ大学)

01 深層強化学習とラティス構造を用いた短下肢装具の軽量化

○林 奏直¹、野波 諒太²、岩本 英久¹、北山 哲士² (1. 呉工業高等専門学校、2. 金沢大学)

02 深層学習を用いた睡眠深度推定技術とパワーナップへの応用

○奥村 将司¹、稲垣 浩之¹、白井 大¹、小寺 カ²、山口 智也² (1. 株式会社アイシン、2. トヨタ自動車株式会社)

03 筋電図を用いた入力デバイス操作時の身体的負荷の検討

○秋葉 隆成¹、加藤 和夫²、門倉 博之² (1. 東北学院大学大学院、2. 東北学院大学)

04 椅子の背が発揮するせん断方向の補助力による機能効果

○中野渡 詞大¹、中野 耕助²、嶺 也守寛³ (1. 東洋大学大学院、2. 職業能力開発総合大学校、3. 東洋大学)

05 認知機能に関連する脳内ガンマ波に影響を与える嗅覚刺激種の探索

○杉浦 宗次朗¹、船戸 美希¹、小林 憲正¹、田中 敬子¹、高阪 勇輔²、小倉 礼^{2,3}、勝野 雅央^{2,3} (1. トヨタ自動車株式会社、2. 名古屋大学大学院医学系研究科、3. 名古屋大学脳とこころの研究センター)

06 機械式パワーアシスト車椅子の斜面走行時における介助者負担軽減効果の評価

○小山 知華¹、大田 慎一郎¹、高戸 仁郎¹ (1. 岡山県立大学)

1A2

SEGs1：システムズアプローチですべての人の健康・福祉増進の仕組みを作る（労働）

15:30-16:30

A会場
(207)

座長 市川 陽子（三重県立看護大学）

01 BioEgg PPG信号に基づく血圧推定・高血圧スクリーニング手法の検討と実地検証

○杉本 知之¹、西尾 浩幸²、須下 幸三²、平井 忠幸³、田中 志信³、野村 章洋³(1. 大阪大学、2. バイオニクス(株)、3. 金沢大学)

02 画像認識モデルEfficientNetV2を用いた調剤薬監査の注視点映像の解析

○宮西 康太⁴、村上 幸一¹、前田 佳孝²、大岩 孝輔³(1. 香川高等専門学校電気情報工学科、2. 自治医科大学、3. 長岡技術科学大学、4. 香川高等専門学校創造工学専攻)

03 画像キャプションを用いた器械出し業務の注視点映像の解析

増田 龍之介¹、○村上 幸一¹、鈴木 聡²、前田 佳孝³、大岩 孝輔⁴(1. 香川高等専門学校、2. 神奈川工科大学、3. 自治医科大学、4. 長岡技術科学大学)

04 分娩介助姿勢に関する人間工学的課題の抽出

○市川 陽子¹、大平 肇子¹、斎藤 真¹(1. 三重県立看護大学)

1A3

SEGs1：システムズアプローチですべての人の健康・福祉増進の仕組みを作る（労働）

16:45-17:45

A会場
(207)

座長 山田 泰之（法政大学）

01 配薬エラーにおける直前情報の干渉効果

○前田 真由美¹、市川 陽子¹、長谷川 智之²、宮崎 由樹³、斎藤 真⁴(1. 三重県立看護大学、2. 名古屋市立大学、3. 中京大学、4. 星城大学)

02 消化器内視鏡医師の被ばく線量の左右差実態把握のための計測方法の提案と放射線防護衣の開発

○八塚 崇帆¹、堀 寧²、小田 佳世子²、榎原 毅³、林 香月⁴、山田 泰之⁵(1. 法政大学大学院デザイン工学研究科システムデザイン専攻、2. 名古屋市立大学大学院医学研究科、3. 産業医科大学産業生態科学研究所、4. 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター、5. 法政大学デザイン工学部システムデザイン学科)

03 リハビリスタッフにおける手指衛生行動の可視化とその効果

— 手指衛生指数を用いた検討 —

○山田 翔太¹、伊藤 真早代²、秋田 憲志^{2,3}(1. 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 診療技術科 リハビリテーション係、2. 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 感染制御室、3. 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 呼吸器内科)

04 急性期病院における転倒・転落リスクアセスメントの看護師間一致に関する検討

— 小項目別・大項目別分析 —

○石松 一真¹、吉田 多重子²(1. 滋慶医療科学大学大学院医療管理学研究科、2. 京都第一赤十字病院)

1B1

**SEGs2：人間工学教育の裾野を広げ複雑な
社会生態システムの課題を解決する**

10:15-11:45

**B会場
(208)**

座長 渡津 弘大 (トヨタ自動車株式会社)

01 エルヴィス・プレスリーの音楽を用いた音楽ジャンルの認識調査

○野口 祐智¹(1. 三条市立大学)

02 エルヴィス・プレスリーの音楽と音楽ジャンルの対応分析

○勝又 洋子¹、山口 正二¹(1. 東京電機大学)

03 デジタル教材におけるキャラクターの活用検討

○池田 亮¹、久保田 莉央¹、益子 宗¹、吉武 良治¹(1. 芝浦工業大学)

04 弱教師あり学習を用いた医用画像読影時の認知的意図遷移の可視化

○中村 潤¹、永吉 実武²、石渡 義之³(1. 中央大学、2. 静岡大学、3. 横浜市立大学)

05 Subjective Evaluation of Conversational AI and AI-powered Search in Creative Writing Tasks

○Chao-Hung Wang¹, Zheng-You Lai¹, Cheng-Yu Hsu¹, Bo-Rui Lin¹(1. National Kaohsiung University of Science and Technology)

06 Department of New Media Communication, Hsing Wu University of Science and Technology

○TIEN SHENG LIN¹(1. 7F-3, No. 743, Minzu East Road, Songshan District, Taipei City)

1B2

SEGs7：人間工学で住み続けられるまちをつくる

16:45-17:45

B会場
(208)

座長 青木 宏文 (名古屋大学)

- 01 電動キックボード運転者の路面障害物回避行動に関する研究—後方車両および個人特性の影響—**
○神田 直弥¹(1. 東北公益文科大学)
- 02 無信号交差点接近中のサイクリストの視行動特性に基づいたインフラ情報提示位置**
○池野 友基¹、吉武 宏¹、小竹 元基¹(1. 東京科学大学)
- 03 骨格情報と説明可能 AI を使った高齢者の転倒リスク評価手法の提案**
○張 夢月¹、鈴木 郁²(1. 法政大学大学院理工学研究科、2. 法政大学理工学部)
- 04 ダイナミックサインにおける表示要素の構成が識別性に及ぼす影響の検討**
矢口 博之¹、○飯塚 弘和²(1. 東京電機大学、2. 東京電機大学大学院)

1C1

SEGs1：システムズアプローチですべての人の健康・福祉増進の仕組みを作る（移動）

16:30-17:45

C会場
(209)

座長 平内 和樹（労働安全衛生総合研究所）

01 変形性膝関節症の重症度分類別にみた膝装具回旋矯正モーメントの定量評価

○中野 耕助¹、嶺 也守寛²、勝平 純司²、新家 寿健¹、池田 知純¹、野本 聡³、北城 雅照³(1. 職業能力開発総合大学校、2. 東洋大学、3. 足立慶友整形外科)

02 靴のソール形状の違いが高齢者の歩行におけるつま先クリアランスに与える影響

○光根 利苑¹、折橋 昭花¹、武末 慎²、野崎 知裕³、小林 弘明³、齋藤 誠二²(1. 岡山県立大学大学院情報系工学研究科、2. 岡山県立大学情報工学部、3. 日進ゴム株式会社)

03 短下肢装具たわみ部の構造変更が歩容に及ぼす影響

○神谷 拓空¹、光根 利苑¹、武末 慎²、齋藤 誠二²(1. 岡山県立大学大学院情報系工学研究科、2. 岡山県立大学情報工学部)

04 選択的足趾伸展課題における伸展角度の検討：他動運動との比較

○安部 征哉¹、幸田 仁志²、来田 宣幸²(1. びわこリハビリテーション専門職大学、2. 京都工芸繊維大学 基盤科学系)

05 高齢者における立位重心移動練習でのフィードバックの違いが安定性限界と運動戦略の習熟過程に及ぼす影響

○楠本 啓人¹、内山 靖¹(1. 名古屋大学大学院医学系研究科総合保健学専攻)

1D1

**SEGs5：人間工学で新たな働きがい・新たな
社会経済価値を創造する**

15:30-16:30

D会場
(401)

座長 余村 朋樹 (大原記念労働科学研究所)

01 近年におけるフォークリフト使用時の労働災害の特徴

○大西 明宏¹(1. 労働安全衛生総合研究所)

02 タッチ端末操作における動作特性の加齢変化－2024～2025年の計測結果の報告－

○畠中 順子¹、高橋 美和子¹、下村 義弘²、原田 悦子³(1. 一般社団法人人間生活工学研究センター、2. 千葉大学、3. 筑波大学/株式会社アイデアラボ)

03 2次元関節座標に基づく荷物持ち上げ時の重量推定

○山口 柊二¹、中川 新太²、松本 俊之¹、肥田 拓哉²(1. 青山学院大学、2. 早稲田大学)

04 建設技能可視化Webプラットフォーム閲覧が印象形成に与える効果の実証分析

○バンダ アモンシリ¹、正田 光次朗¹、横山 清子²、砂田 治弥³(1. 株式会社光建、2. 名古屋市立大学、3. 愛知文教女子短期大学)

1D2

SEGs1,5

16:45-17:45

D会場
(401)

座長 笠松 慶子 (東京都立大学)

01 ワーカーエクスペリエンスの観点を取り入れたシステム評価手法の開発

○阿野 研汰¹、新保 健一²、上園 巧²、中西 美和¹(1. 慶應義塾大学、2. 株式会社 日立製作所)

02 Development of a Barrier-Free Music Therapy Instrument: A Study on the Significant Correlation between Stress Perception and Operational Usability

○CHENG-WEI CHIANG¹, Ying-Yin Huang¹(1. National Taiwan University)

03 フリーアドレスオフィスにおけるペンダント照明の吊り下げ高さと輝度が視覚的プライバシーおよび作業パフォーマンスに及ぼす影響

○加藤 未佳¹、川島 颯斗¹、山口 尋大¹(1. 日本大学)

04 オフィス環境における仮眠の仕方がパフォーマンスに及ぼす影響

○羅 維ヤン¹、土井 俊央¹(1. 大阪公立大学)

1E1

SEGS1-9 (移動)

10:15-11:30

E会場
(402)

座長 佐藤 健斗 (北海道科学大学)

01 脊髄損傷者用動力付外骨格型機器の歩行制御プログラムの改良

○小山 秀紀¹、池田 博康¹、駒形 忠臣²、山田 義範²、高橋 雄平²、六名 泰彦²、古澤 一成²(1. 労働安全衛生総合研究所、2. 吉備高原医療リハビリテーションセンター)

02 道路案内標識劣化基準策定に関する基礎的研究

○川上 真由¹、武井 仁志²、作間 智之²、飯田 芳之²、阿久津 正大³、三林 洋介¹(1. 玉川大学、2. 全国標識・標示業協会、3. エルゴリサーチ&デザインラボ)

03 後席の子どもを確認する際の運転への影響

—見守りアプリ「FamiCa」と後席確認ミラーの比較評価—

○伊神 夏帆¹、栗本 直幸¹、舟橋 まゆ¹、伊藤 綾野¹、岸 浩司²(1. 株式会社東海理化、2. 名古屋大学)

04 飛行場管制席のふるまいを模擬したエージェントベースモデルの構築

○工藤 順成¹、中西 美和¹(1. 慶應義塾大学)

05 消費電力量が小さい鉄道運転士の運転速度の特徴

○上田 珠生¹、鈴木 大輔¹、中川 千鶴¹、小川 知行¹、迫 博之²、山元 雄太²(1. 公益財団法人鉄道総合技術研究所、2. 九州旅客鉄道株式会社)

1E2

SEGs1,2,3,6,7 (生活)

15:30-17:00

**E会場
(402)**

座長 矢野 円郁 (神戸女学院大学)

01 女子大学生における低エネルギー利用に関する調査

○佐藤 健¹、中島 みづき¹、加藤 智久⁴、神田 幸治⁵、中島 君恵³、加藤 麻樹²(1. 実践女子大学、2. 早稲田大学、3. 桐生大学、4. TOTO株式会社、5. 名古屋工業大学)

02 VR空間における色彩条件が主観評価および生理反応に及ぼす影響の検討

○上原 菜々花¹、中島 みづき¹、佐藤 健¹、盛川 浩志²(1. 実践女子大学大学院、2. 東京工科大学)

03 交通空白地域におけるデマンド交通の停留所看板の視認性改善

○吉谷 隼摩¹、岡 宏樹¹、古屋 友和¹、脇 遼太郎²、広崎 蒼大²、樋口 貴広²(1. 東京都立産業技術高等専門学校、2. 東京都立大学人間健康科学研究科ヘルスプロモーションサイエンス学域)

04 直接授乳および哺乳器授乳における乳児の自律神経調節特性-線形混合モデルを用いた心拍変動解析

○家易 范^{1,2}、清水 璃咲子¹、田部井 佐友里²、落合 志文²、下村 義弘¹(1. 千葉大学、2. ピジョン株式会社)

05 EEG Cognitive State Interpretation with Local Multimodal LLMs and RAG

○ZHI-CHENG CHIEN¹, CHIN-MEI CHOU¹(1. Yuan Ze University)

06 女子大学生が男女接近者のどの部位に注目するかでパーソナルスペースは変わるのか

○安達 悠子¹(1. 愛知大学)

1F1

SEGs1：システムズアプローチですべての人の健康・福祉増進の仕組みを作る（生活）

10:15-11:45

F会場
(403)

座長 藤岡 英二 (株式会社アイシン)

01 水槽型超音波撮影法を用いた異なる荷重条件下における足底腱膜形態変化の検討

○高井 伶遠¹、八尋 美桜¹、ローピンヤップ²、村木 里志²(1. 九州大学大学院芸術工学府、2. 九州大学大学院芸術工学研究院)

02 地下足袋の二股構造が歩行動作および姿勢の安定度に及ぼす影響

○中田 小百合¹、下村 義弘²、波止 英³(1. 千葉大学 融合理工学府、2. 千葉大学 デザイン・リサーチ・インスティテュート、3. 株式会社丸五)

03 NIR顔画像のフラクタル特徴に基づく安静時血圧推定モデルの構築

○中西 仁¹、南雲 健人¹、野澤 昭雄¹(1. 青山学院大学)

04 足部形状の主観認識と客観指標の一致度および足と靴の寸法差との関係

○中本 光則¹、神谷 拓空¹、武末 慎²、齋藤 誠二²(1. 岡山県立大学大学院情報系工学研究科、2. 岡山県立大学情報工学部)

05 幻肢痛治療の在宅治療を目指した複合現実感型鏡療法システム

○室田 梨花子¹、小枝 正直¹、吉村 学²、佐藤 健治³(1. 岡山県立大学、2. 川崎医療福祉大学、3. 川崎医科大学)

06 顔面に対する徒手刺激による浮腫軽減(小顔効果)

○岩井 叶夢¹、武正 拓之²、中田 小百合²、稲垣 友亮²、浦田 向日葵²、佐々木 竜太⁴、佐々木 聖子³、下村 義弘³(1. 千葉大学工学部、2. 千葉大学大学院融合理工学府、3. 千葉大学デザイン・リサーチ・インスティテュート、4. 日本小顔矯正認定協会)

1F2

SEGs6：人間工学で産業・技術革新×人々の
調和を図る（移動）

15:30-16:30

F会場
(403)

座長 齋藤 誠二（岡山県立大学）

01 足跡画像における特徴点を用いた足跡鑑定手法の検討

○折橋 昭花¹、宮川 泰地¹、野中 美羽¹、小枝 正直²、武末 慎²、齋藤 誠二²(1. 岡山県立大学大学院情報系工学研究科、2. 岡山県立大学情報工学部)

02 足跡鑑定のための歩容の空間変数を用いた異同識別の検討

○宮川 泰地¹、折橋 昭花¹、野中 美羽¹、小枝 正直²、武末 慎²、齋藤 誠二²(1. 岡山県立大学大学院情報系工学研究科、2. 岡山県立大学情報工学部)

03 体圧センサに基づく自動車運転姿勢推定手法の開発

○張 江磊¹、平尾 章成¹、鈴木 快¹(1. 芝浦工業大学)

04 長時間運転時におけるシートモーションの有無によるドライバの着座疲労評価

○栗田 皓太¹、榎谷 優斗¹、増田 大和¹、三輪 海月¹、早川 聡一郎¹、池浦 良淳¹、吉田 俊一¹、北川 哲也²(1. 三重大学、2. フォルテック（株）)

1F3

SEGs6：人間工学で産業・技術革新×人々の
調和を図る（移動）

16:45-17:45

F会場
(403)

座長 藤掛 和広（中京大学）

01 移動視聴覚刺激の座標一致感覚の評価における移動速度変化の検討

○片桐 宏太郎¹、武藤 憲司¹(1. 芝浦工業大学)

02 漫然運転時の視覚警告の輝度と点滅周波数が注意誘導に与える影響

○茅原 崇徳¹、大澤 諒祐²、坂本 二郎¹(1. 金沢大学、2. 金沢大学大学院)

03 乗車中の無意識動作の検出と不快度変化との関連 —ステレオカメラを用いた動作の抽出—

○片山 博公¹、樹野 淳也²、前田 節雄³、石松 一真⁴(1. 近畿大学大学院、2. 近畿大学、3. ノッティンガム・トレント大学、4. 滋慶医療科学大学大学院)

04 マルチモーダルな全身振動が実行機能課題のリアクションタイムに及ぼす影響

○松岡 巧真¹、樹野 淳也²、石松 一真³、前田 節雄⁴(1. 近畿大学大学院、2. 近畿大学、3. 滋慶医療科学大学大学院、4. ノッティンガム・トレント大学)

1G1

SEGs6：人間工学で産業・技術革新×人々の
調和を図る

10:15-11:30

G会場
(404)

座長 安達 悠子 (愛知大学)

**01 ダイバーの安全・安心を見守るためのデジタルヒューマンモデルの構築 (第1報)
～ 流体-構造連成解析によるダイビングフィンの性能評価 ～**

○石原 和倫¹、山野 彰夫¹、中谷 真太郎²、有馬 正和¹(1. 大阪公立大学、2. 鳥取大学)

02 機能共鳴分析手法 (FRAM)に基づく電力復旧対応における「達人の技」の形式知化

○西村 真司¹、張 坤²、馮 曉東²、三上 喜貴²、吉澤 厚文^{2,1}(1. 東京電力ホールディングス株式会社、2. 国立大学法人長岡技術科学大学)

03 地震発生時に新幹線の輸送指令長に求められるノンテクニカルスキル (NTS) の抽出

○坂庭 純¹、枝川 真也¹、藤代 博明¹、金子 友紀²、水野 智子²、大出 絢香²(1. 東日本旅客鉄道株式会社、2. 株式会社オーグス総研)

04 姿勢推定AIを用いた3次元空間における危険判定システムの開発

○中村 龍哉¹、福田 修¹、Wen Liang Yeoh¹、下田 健晶²、安藤 健次²、坂門 憲二郎²(1. 佐賀大学、2. トヨタ自動車九州 (株))

05 ハンドモーションキャプチャを用いた化学防護手袋着用時の手指動作解析と作業性評価

○竹内 大樹¹、宮内 博幸¹、樋上 光雄¹、石上 温¹(1. 産業医科大学)

1G2

SEGs1：システムズアプローチですべての人の健康・福祉増進の仕組みを作る（労働）

15:30-16:30

G会場
(404)

座長 菅間 敦 (成蹊大学)

01 覚醒度推定のための音声信号特徴量の普遍的分布特性

○塩見 格一¹(1. 福井医療大学)

02 座位作業時の腰部サポーター着用が姿勢制御および生理特性に及ぼす影響

○志村 恵¹、佐々木 智典¹、大塚 菜々¹(1. 東京都立産業技術研究センター)

03 シャガみ姿勢と前屈姿勢が荷物持ち上げ時の腰部椎間板圧縮力に及ぼす影響

○小山 冬樹¹、杜 唐慧子¹、岩切 一幸¹(1. 独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所)

04 森林の眺望が創造性におよぼす影響に関する実験的検討

○伊藤 颯人¹、吉田 伊吹¹、小林 大二²(1. 公立千歳科学技術大学院 理工学部 理工学研究科、2. 公立千歳科学技術大学)

1G3

SEGs1,2,3,4,6 (生活)

16:45-17:45

G会場
(404)

座長 三林 洋介 (玉川大学)

01 日常動作アンケートを用いた高齢者握力の簡易推定 (2)

— 開栓・把持動作およびフレイル項目の主観評価による推定モデル —

○伊藤 倫¹、谷口 俊治¹、青木 宏文¹(1. 名古屋大学)

02 医療機器のユーザビリティ評価環境における各国の追加要求事項の比較

○倉部 勇一^{1,2}、田村 学^{1,3}、正宗 賢^{1,3}(1. 東京女子医科大学・早稲田大学 共同大学院、2. 日本光電工業株式会社、3. 早稲田大学 医療レギュラトサイエンス研究所)

03 高齢化社会に適したプラスチック食品容器の利便性向上

岩井 叶夢¹、○加茂 周悟¹、望月 快風¹、藤野 悠¹、片場 天斗¹、横野 聖也³、土合 大輝³、酒井 恒雄³、下村 義弘²(1. 千葉大学 工学部、2. 千葉大学デザイン・リサーチ・インスティテュート、3. 明太化成株式会社)

04 MRヘッドセットを用いた視距離測定におけるノートパソコン画面の角度が測定精度に与える影響

○田中 浩貴¹、柴田 隆史¹(1. 東海大学)

5月24日(日) May 24 (Sunday)

OS2

【学会本部企画シンポジウム】
エイジフレンドリーな職場づくりと人間工学

A会場(207)
13:00-14:30

オーガナイザー：持丸 正明（産業技術総合研究所）

01 高齢者の労働災害防止のための指針の概要及び指針策定の背景について

岩澤 俊輔（厚生労働省労働基準局安全衛生部安全課・主任中央産業安全専門官）

02 トヨタ自動車におけるダイバーシティ全方位型による安全衛生対策

浅野 朝郎（トヨタ自動車株式会社安全健康推進部・主幹）

03 高齢者の行動災害（転倒・腰痛）に関する国際的な動向

榎原 毅（産業医科大学人間工学研究室・教授）

S6

【シンポジウム6】
高齢者が安全に働くために

G会場(404)
9:00-10:00

01 高齢労働者の安全対策について ―心身機能の把握と作業環境の改善―

松田 文子¹(1. 公益財団法人大原記念労働科学研究所)

02 高齢者の転倒とその防止について

○内山 靖¹、青木 和夫²(1. 名古屋大学大学院医学系研究科 予防・リハビリテーション科学、2. 日本大学)

S7

【シンポジウム7 MSDs研究部会企画】
医療労働は誰を対象に設計されてきたのか
ジェンダー視点から再考する「働きにくさ」

G会場(404)
10:30-11:30

○前田 佳孝¹、堀 寧²、市岡 聖菜³、青木 真希子⁴、市川 陽子⁵、高村 卓志⁶、松崎 一平⁷(1. 自治医科大学、2. 名古屋市立大学、3. (株) 島津製作所、4. 筑波大学、5. 三重県立看護大学、6. Sunrise Japan Hospital Phnom Penh、7. 医療法人山下病院)

S8

【シンポジウム8】
Activity Based Working (ABW) に関する国際標準
化活動

G会場(404)
13:00-15:00

○福住 伸一^{1,2,8}、佐藤 泰³、石川 貴也⁴、吉井 隆⁵、菊地 明⁶、兵頭 啓一郎⁷、笠松 慶子⁸(1. 理化学研究所、2. 産業技術総合研究所、3. 名古屋市立大学、4. 傍島製罐(株)、5. (株) NTT ファシリティーズ、6. パナソニック(株)、7. Key's Company、8. 東京都立大学)

S9**【シンポジウム9 普及委員会企画】**

**「ユース会員」新設準備企画！人間工学で広がる知的
好奇心 – なんて“これ”がお気に入り？ヒミツを探
るゲーム体験学習 –**

J会場

(3Fアクティブラーニング)

13:00-14:30

○芦高 勇気¹、安達 悠子²、石橋 圭太³、榎原 毅⁴、齋藤 誠二⁵、庄司 直人⁶、前田 佳孝⁷、松原 貴史⁸、三岩 功季⁹、吉野 智佳子^{10,3}(1. 西日本旅客鉄道株式会社、2. 愛知大学 文学部 心理学科、3. 千葉大学 デザイン・リサーチ・インスティテュート、4. 産業医科大学 産業生態科学研究所、5. 岡山県立大学 情報工学部、6. 朝日大学 保健医療学部 健康スポーツ科学科、7. 自治医科大学 医学部 メディカルシミュレーションセンター、8. 豊田工業高等専門学校 電気・電子システム工学科、9. 三重大学 工学研究科、10. 帝京平成大学)

L**【若手支援委員会・CPE連携企画】**

**人間工学deナカマとつながろう！
ーオールジャパン学生交流ランチオンセミナーー**

J会場

(3Fアクティブラーニング)

12:00-13:00

○山田 幸子¹、境 薫²、西原 彩³、吉武 良治⁴、石橋 圭太⁵、齋藤 誠二⁶(1. 本田技研工業(株)、2. 富士通(株)、3. 人間工学専門家認定機構、4. 芝浦工業大学、5. 千葉大学、6. 岡山県立大学)

2A1

SEGs1：システムズアプローチですべての人の健康・福祉増進の仕組みを作る（移動）

9:00-10:15

A会場
(207)

座長 齋藤 真 (星城大学)

01 回帰モデルに基づく姿勢角関連指標と長時間運転時における肉体疲労および生理反応の関係

○高野 修¹、中本 裕也¹、金子 友¹、郭 鐘聲²(1. タチエス、2. 拓殖大学)

02 心拍関連複合指標に基づく長時間運転時におけるドライバの身体部位別疲労評価

○郭 鐘聲¹、高野 修²、中本 裕也²、金子 友²(1. 拓殖大学、2. タチエス)

03 VR交差点映像を用いた安全確認行動の検討に関する課題と展望

○山岸 未沙子¹、樋口 恵一²、伊藤 僚²、村上 滉一^{1,2}、三村 泰広³(1. 豊田都市交通研究所、2. 大同大学、3. 大分大学)

04 Reverse Omega Shoe Insertユーザの初期ロイヤリティに関する混合研究

～定量的評価と使用体験の質的分析～

○佐藤 健斗¹、昆 恵介¹、春名 弘一¹、中井 要介²、石井 滉樹²、森 嘉裕^{3,5}、山本 澄子⁴(1. 北海道科学大学、2. 株式会社マイスター靴工房KAJIYA、3. 札幌麻生脳神経外科病院リハビリテーション部、4. 国際医療福祉大学 大学院、5. 北海道科学大学 大学院)

05 歩行開始アシストに向けた蹴り出し力およびタイミングの推定

○木須 健太¹、福田 修¹、Wen Liang Yeoh¹(1. 佐賀大学)

2A2

SEGs1：システムズアプローチですべての人の健康・福祉増進の仕組みを作る

10:45-12:00

A会場
(207)

座長 池浦 良淳 (三重大学)

01 MRインタフェースを有する点群マッチング型手術支援システム

○白輪 遥¹、小枝 正直¹、曲淵 敏博²、澤田 篤郎³、大西 克彦⁴、登尾 啓史⁴(1. 岡山県立大学、2. 京都大学医学部附属病院、3. 宮崎大学医学部附属病院、4. 大阪電気通信大学)

02 人間の肩タッチ動作を模したアームロボットの試作と試行

○八尋 美桜¹、ヨー ウェンリアング²、ロー ピンヤップ³、村木 里志³(1. 九州大学大学院芸術工学府、2. 佐賀大学理工学部、3. 九州大学大学院芸術工学研究院)

03 バイオフィードバックを用いた運動主体感向上～心拍ふくわらいの提案～

○座間 日葵¹、伊藤 拓巳²、益子 宗¹、吉武 良治¹(1. 芝浦工業大学、2. 東京大学)

04 触覚提示フィルムを用いたタッチスクリーン入力インタフェースの検討

○青木 智香¹、小林 大二²(1. 公立千歳科学技術大学 大学院 理工学研究科、2. 公立千歳科学技術大学)

05 VRを用いた暗示内容の視覚化が催眠誘導プロセスに与える影響

○伴地 芳啓¹、河合 隆史¹(1. 早稲田大学)

2A3

SEGs1：システムズアプローチですべての人の健康・福祉増進の仕組みを作る（生活）

14:45-16:15

A会場
(207)

座長 蜂須賀 知理（東京大学）

01 照明条件に依存しない小児疼痛反応検出を目的とした顔面の局所蒼白解析の一考察

○神納 貴生¹、鎌倉 快之¹、瑞木 匡²、馬奈木 彰弘²(1. 大阪工業大学、2. 京都府立医科大学)

02 哺乳器哺乳中の乳児における生理反応 —脳波指標を用いた検討—

○清水 璃咲子¹、Fan Jiayi^{1,2}、落合 志文²、田部井 佐友里²、下村 義弘¹(1. 千葉大学、2. ピジョン株式会社)

03 光学フロー解析による睡眠中体動評価とマットレス構造の影響

○山本 一天¹、大山 貴大¹、岸本 康平²、塩澤 成弘⁴、岡田 志麻³(1. 立命館大学院理工学研究科、2. 立命館大学 総合科学技術研究機構、3. 立命館大学理工学部、4. 立命館大学スポーツ健康科学部)

04 マットレスの違いが睡眠後の身体機能および覚醒度に与える影響

○大山 貴大¹、山本 一天¹、岸本 康平³、塩澤 成弘⁴、岡田 志麻²(1. 立命館大学 理工学研究科、2. 立命館大学理工学部、3. 立命館大学 総合科学技術研究機構、4. 立命館大学 スポーツ健康科学部)

05 高齢者における音楽聴取時のアルファ波変化と抑うつ傾向の関連

○山内 さつき¹、阿部 友和¹、James Curley¹、西川 久仁子²、下田 真吾¹、平田 仁¹(1. 名古屋大学大学院医学系研究科、2. 株式会社ファーストスター・ヘルスケア)

06 障害者自立支援機器開発コーディネーター人材育成におけるスキル学習手法の検討

○蜂須賀 知理¹、西浦 裕子²、松田 雅弘³、芳賀 信彦⁴、二瓶 美里¹(1. 東京大学、2. 名古屋大学、3. 順天堂大学、4. 国立障害者リハビリテーションセンター)

2B1

SEGs6：人間工学で産業・技術革新×人々の 調和を図る

9:00-10:30

B会場
(208)

座長 鈴木 一弥 (労働安全衛生総合研究所)

- 01 油圧ショベルの転倒・転落事故におけるオペレータ行動特性の分析に基づく事故要因の検討**
○段 利和¹、吉武 宏¹、松村 幸紀²、岡部 一慶²、岩館 沙紀²、小竹 元基¹(1. 東京科学大学、2. 小松製作所)
- 02 耐滑性能推定に向けた鞋底と床面の摩擦特性と表面パターンに関する研究**
○柴田 圭¹、山口 健²(1. 労働安全衛生総合研究所、2. 東北大学)
- 03 機械学習と生理学的時間制約に基づくECG R波ピーク検出の周波数横断分析**
○吉田 豊¹、横山 清子²(1. 名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科、2. 名古屋市立大学大学院 データサイエンス研究科)
- 04 内視鏡医の手技姿勢の個人差分析に基づいた左肘部補助具の提案**
○佐田 啓志郎¹、山田 颯人¹、堀 寧²、林 香月³、榎原 毅⁴、入江 剛史⁵、山田 泰之⁶(1. 法政大学大学院デザイン工学研究科システムデザイン専攻、2. 名古屋市立大学大学院医学研究科、3. 名古屋市立大学病院医学部附属東部医療センター、4. 産業医科大学産業生体科学研究所、5. 東レ株式会社コンポジット事業第1部コンポジット販売第2課、6. 法政大学デザイン工学部システムデザイン学科)
- 05 板ばね構造を利用した医療用放射線防護衣の肩への負荷を軽減するインナー型補助具の研究開発**
○坂本 大地¹、山田 颯人¹、堀 寧²、林 香月³、榎原 毅⁴、入江 剛史⁵、山田 泰之⁶(1. 法政大学大学院デザイン工学研究科、2. 名古屋市立大学、3. 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター、4. 産業医科大学、5. 東レ株式会社、6. 法政大学)
- 06 オフィスワークにおける集中度の定量計測手法**
○平尾 章成¹、蒔田 幹将¹(1. 芝浦工業大学)

2B2

**SEGs6：人間工学で産業・技術革新×人々の
調和を図る（生活）**

10:45-12:00

B会場
(208)

座長 宮崎 由樹 (中京大学)

01 VR空間における非対話型アバターによる心理誘導効果の検討

○和田 圭太¹、福地 庸介¹、西内 信之¹(1. 東京都立大学大学院システムデザイン研究科情報科学域西内研究室)

02 筋骨格モデルを用いた足組み着座姿勢のメカニズム解明

○小形 暢宥¹、平尾 章成¹(1. 芝浦工業大学)

03 自然映像視聴中に挿入されたインストリーム広告が心理的ストレスおよび自律神経反応に及ぼす影響

○倉岡 宏幸¹、金田 知優¹、仲林 清¹(1. 公立千歳科学技術大学)

04 美的評価の高いヒールパーツを有するヒールシューズが立位時の姿勢安定性に及ぼす影響

○酒井 里菜¹、武末 慎²、齋藤 誠二²(1. 岡山県立大学大学院情報系工学研究科、2. 岡山県立大学情報工学部)

05 半立位姿勢シーティングの快適指示要件の導出

○中西 凜¹、平尾 章成¹(1. 芝浦工業大学)

2B3

**SEGs6：人間工学で産業・技術革新×人々の
調和を図る（コミュニケーション）**

13:00-14:15

B会場
(208)

座長 水本 徹 (株式会社島津製作所／日本福祉大学)

01 生成AIと視線情報を用いたUI操作習熟度の可視化の検討

○土屋 里紗¹、福地 庸介¹、西内 信之¹(1. 東京都立大学)

02 鉄道の自動運転シミュレータを用いた信号消灯シナリオにおける報告の比較

○倉友 乃康¹、星野 慧¹、上田 珠生¹、松田 祥弘²、桜井 淳宏²、本田 裕尚³、鈴木 大輔¹(1. 公益財団法人鉄道総合技術研究所、2. 株式会社アニモ、3. 九州旅客鉄道株式会社)

03 VRプレゼンテーション訓練における聴衆のうなずき動作の設計

○梅澤 幸太郎¹、井上 陽斗¹、吉武 良治¹(1. 芝浦工業大学)

**04 文楽人形の構造適用でロボットに生命感や感情を生成するUXデザイン研究
-有機的動作軌跡と誇張表現による認知的錯覚の誘発に関する検証-**

○中川 志信¹(1. 名古屋市立大学大学院芸術工学研究科 芸術工学部産業イノベーションデザイン領域)

05 触覚と聴覚のクロスモーダル効果を用いたタッチパネルの押下感と変形対象の想起の評価

○秋山 功匠¹、古屋 友和¹、坂崎 純太郎²、原 蘭 迪子²、樋口 貴広²(1. 東京都立産業技術高等専門学校、2. 東京都立大学人間健康科学研究科ヘルスプロモーションサイエンス学域)

2B4

**SEGs6：人間工学で産業・技術革新×人々の
調和を図る（生活）**

14:45-16:15

B会場
(208)

座長 土井 俊央 (大阪公立大学)

01 作業の難易度および周辺視野への提示情報量が有効視野に及ぼす影響

○松本 稜央¹、茅原 崇徳²、坂本 二郎²(1. 金沢大学大学院、2. 金沢大学)

**02 eスポーツのコーチングを想定した一人称視点のインターフェースに関する研究
-フリックエイムの軌跡に与える影響-**

○佐藤 駿一¹、高津 洋貴²、加藤 利康²(1. 日本工業大学大学院、2. 日本工業大学)

03 小学校低学年児童の家庭での学習アプリ操作における課題意識の分析

○中谷 知佳¹、土井 俊央¹(1. 大阪公立大学大学院生活科学研究科)

04 卓球ラケットのグリップ形状が打球パフォーマンスと把持特性に及ぼす影響

○鎌野 朱人¹、熊本 龍志¹、Loh Ping Yeap²(1. 九州大学大学院芸術工学府、2. 九州大学大学院芸術工学研究
院)

05 小口径キャップの開栓容易性

○湯本 淳彬¹、秋月 理希⁵、清水 璃咲子¹、高橋 由凧¹、篠原 知也³、小柳 忠幸³、坂本 優³、米山 達也²、与語 健
太郎²、川口 智治²、松尾 賢²、下村 義弘⁴(1. 千葉大学大学院融合理工学府、2. 森永製菓株式会社、3. 株式会
社細川洋行、4. 千葉大学デザイン・リサーチ・インスティテュート、5. 千葉大学)

06 VR機器購入者における高頻度VR利用に関わる個人特性

○本井 碧¹、富松 俊太¹、申 夔敬¹、勝村 啓史¹、樋口 重和¹、西村 貴孝¹(1. 九州大学)

2C1

SEGs2,4,5,6,7,8,9 (生活)

9:00-10:30

C会場
(209)

座長 倉岡 宏幸 (公立千歳科学技術大学)

01 湯筆はどのような筆圧変動によって生じるのか？

○河合 はな¹、越水 悠介²、渡邊 琴弓³、木島 章文⁴、島 弘幸⁴(1. 山梨大学 生命環境学部、2. 山梨大学 院統合応用生命科学専攻、3. 山梨大学 院生命環境学専攻、4. 山梨大学 院総合研究部)

02 鉛筆デッサンにおける質感表現の描画行動分類と生体反応の統合解析

—芸大日本画専攻学生を対象とした視線・筋電・脳波による検討—

○金 承範¹、小俣 英彦²、横山 清子²(1. 名古屋市立大学大学院 芸術工学研究科、2. 名古屋市立大学)

03 精神課題時の生理反応と茶の香りの関係

○黒坂 知絵¹、柴田 美雅¹、樋上 光雄¹、辰己 由華²、田形 千佳²、新田 千尋²、小林 誠²、三宅 晋司³(1. 産業医科大学、2. 株式会社伊藤園、3. mykPROJECT)

04 足部形状および靴内部寸法を用いた足と靴の寸法一致度の検討

○武末 慎¹、中本 光則²、齋藤 誠二¹(1. 岡山県立大学情報工学部、2. 岡山県立大学大学院情報系工学研究科)

05 参加意識を高める情動的ナッジとさいころセンサを用いた飲食店混雑情報システム

○近藤 崇之¹、古城 直樹¹(1. 日産自動車株式会社)

06 The Influence of Korean Popular Culture on Consumer Behavior

○Cheng Chung Hsieh¹, Chang Tin Chang²(1. Asia University, Department of Business Administration, 2. National Penghu University of Science and Technology, Department of Marketing and Logistics Management,)

2C2

SEGs1,5,6,9 (生活)

10:45-12:00

C会場
(209)

座長 窪田 友樹 (朝日大学)

01 人体の2次元剛体リンクモデルを用いた作業動作の評価と最適化

○廣川 敬康¹、黒川 勝永¹(1. 近畿大学)

02 生成AIによる音楽および単語音声刺激が睡眠に及ぼす影響の予備的検討

○山川 輝人¹、竹尾 淳^{1,2,3}(1. 名古屋文理大学、2. 名古屋工業大学、3. 名古屋市立大学)

03 多チャンネル筋電位とIMUを用いたアシストグローブのための把持動作識別

○吉田 壮汰¹、井上 剛²(1. 大阪工業大学大学院 ロボティクス&デザイン工学研究科、2. 大阪工業大学 ロボティクス&デザイン工学部)

04 地域住民を対象とした運動教室の実践

○山田 クリス孝介¹、西垣 景太¹、松下 宗洋¹(1. 東海大学)

05 寝返りのしやすさに着目した寝具の客観的評価法の検討

○田上 絢月²、川村 耕平²、浅田 遥²、田中 美帆²、岡田 志麻³、塩澤 成弘¹(1. 立命館大学スポーツ健康科学部、2. 立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科、3. 立命館大学理工学部)

2C3

SEGs1,2,4,9 (生活)

13:00-14:30

C会場
(209)

座長 大島 浩幸 (東京都立産業技術研究センター)

01 心拍間隔と顔表情映像の情報融合による時系列情動推定

○朱 翊洋¹、鈴木 郁²(1. 法政大学大学院理工学研究科、2. 法政大学理工学部)

02 LiDARを用いた個人認証

○高橋 和史¹、鈴木 郁²(1. 法政大学大学院理工学研究科、2. 法政大学理工学部)

03 異なる断面形状の箸が子供の箸操作と嗜好性に及ぼす影響

—8角形,3角形,組み合わせ形状を用いた実験的検証—

○餘久保 優子¹、柴田 克之²(1. 金沢学院大学 芸術学部、2. 金沢大学 医薬保健研究域 保健学類)

04 ダンベルによる正しい筋力トレーニングのための個別適応システムの開発と評価

○加藤 利康¹、中島 将太¹、金子 竜矢¹、中村 圭希¹、高津 洋貴¹(1. 日本工業大学 先進工学部 情報メディア工学科)

05 ランニング中の環境音認知と娯楽度を両立するイヤホンの検討

○吉村 颯馬¹、山下 直之²(1. 京都工芸繊維大学大学院、2. 京都工芸繊維大学)

06 歩行裸足足跡に基づく足底圧中心推定線の妥当性

○野中 美羽¹、折橋 昭花¹、宮川 泰地¹、大山 剛史²、小枝 正直²、武末 慎²、齋藤 誠二²(1. 岡山県立大学大学院情報系工学研究科、2. 岡山県立大学情報工学部)

2C4

SEGs1,3,5,6,7,9 (労働)

15:00-16:00

**C会場
(209)**

座長 和田 一成 (西日本旅客鉄道株式会社)

01 Analysis of musculoskeletal disorders for massage practitioners

○Po-Hung Lin¹, Yi-Lin Lee¹(1. National Kaohsiung University of Science and Technology)

02 鉄道車両における押込みスイッチ付き操縦ハンドルノブの厚さの検討

○大谷 総一郎¹、脇水 俊行¹、森田 英嵩¹、福田 啓介¹、岩井 修平¹(1. 西日本旅客鉄道株式会社)

03 水平押し作業における力知覚特性の調査—矢状面上での手位置および後ろ足支持角度の影響—

○菅間 敦¹、山内 智之¹、城 菜都美¹、宮里 真史¹(1. 成蹊大学)

04 インフラ運用保守向けAIチャットボットにおける業務支援UIの検討

○長島 正和¹、石川 智朗¹、小林 潤奈¹、大橋 彩音¹、門倉 悠真¹、根本 伸樹¹(1. 株式会社東芝)

2D1

**SEGs2：人間工学教育の裾野を広げ複雑な
社会生態システムの課題を解決する**

10:30-12:00

D会場
(401)

座長 池上 徹 (大原記念労働科学研究所)

- 01 オンライン学習におけるストレス反応の個人差とマインドフルネス特性 (1)
-心拍変動による検討-**
- 倉住 悠希¹、張 帆¹、長田 典子¹(1. 関西学院大学大学院理工学研究科)
- 02 オンライン学習におけるストレス反応の個人差とマインドフルネス特性 (2): 身体動作の検討**
- 張 帆¹、倉住 悠希¹、長田 典子¹(1. 関西学院大学)
- 03 日常動作アンケートを用いた高齢者握力の簡易推定 (1)
— 握力実測値と開栓・把持動作およびフレイル項目の基礎分析 —**
- 谷口 俊治¹、伊藤 倫¹、青木 宏文¹(1. 名古屋大学)
- 04 VRコンテンツ制作を取り入れた高等学校における探究学習と生徒の気づき**
- 馬宮 悠衣¹、田中 浩貴¹、ドゥラゴ 英理花²、柴田 隆史¹(1. 東海大学、2. 聖徳学園中学・高等学校)
- 05 鉄道運転士のリモートでの学科講習における理解度送信ツールの効果**
- 佐藤 文紀¹、鎚木 俊暁¹、岡田 安功¹、小野間 統子¹、藤道 宗人¹、村越 暁子¹、鈴木 浩明¹(1. 公益財団法人鉄道総合技術研究所)
- 06 交差点右折時の車両軌跡の曲率がドライバの注視行動と歩行者発見の遅れに及ぼす影響**
- 山本 光祐¹、小竹 元基¹、吉武 宏¹(1. 東京科学大学)

2F1

SEGs1,2,4,5,6 (労働)

9:00-10:30

F会場
(403)

座長 石井 賢治 (大原記念労働科学研究所)

01 ドローン操縦映像のHMD提示時における映像酔い評価指標の開発

○鳴海 颯人¹、伊黒 有祐¹、中根 滉稀²、藤掛 和広¹、高田 宗樹²(1. 中京大学、2. 福井大学)

02 指差呼称をトリガーとした点検行動支援システムの研究

—「音声誘導」機能による作業支援効果の評価—

○田内 俊充^{1,2}、野上 大史¹(1. 崇城大学大学院工学研究科機械システム工学専攻、2. 崇城大学工学部宇宙航空システム工学科)

03 暑熱環境下におけるインフラ施工作業の負担分析 (第3報)

—深部体温上昇に伴う発揮筋力の低下を考慮した筋疲労評価—

○長田 裕司¹、金田 謙治¹、山田 登¹、白木 睦生¹、小里 明男¹、河上 充佳¹(1. 株式会社豊田中央研究所)

04 野菜収穫作業におけるアシストスーツの人間工学的評価

○向 霄涵¹、田中 正浩¹、菊池 豊¹(1. 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構)

05 ウェアラブルセンサ等を用いた覚醒低下検知に向けた基礎検討

○中川 千鶴¹、大須賀 美恵子^{2,3}(1. (公財) 鉄道総合技術研究所、2. 大阪工業大学、3. (株) ウェルネスラボ)

06 Extending Fitts' Law for Spatial Interaction in Augmented Reality

○Chen Zhi Xuan¹(1. Department of Applied Information Technology, Hsing Wu University)

2F2

SEGs1,2,3,4,5,6,9 (労働)

10:45-12:00

F会場
(403)

座長 山田 翔太 (名古屋市立大学)

01 医薬品名称類似のヒューマンエラーに関する基礎的研究

○佐藤 小夜子¹、渡邊 裕²、三林 洋介¹(1. 玉川大学、2. エルゴリサーチ&デザインラボ)

02 就労中のエラーの原因帰属と認知特性：中高齢者における比較

○木村 貴彦¹、岩原 昭彦²、八田 武志¹(1. 関西福祉科学大学、2. 京都女子大学)

03 事事故例の提示による安全教育が危険感受性に及ぼす効果

○庄司 卓郎¹(1. 産業医科大学産業保健学部安全衛生マネジメント学)

04 陸上貨物運送業における墜落・転落事故分析

—性別ごとの事故状況に着目して—

○上田 真由子¹、永久保 亮²、谷口 茉友子²(1. 追手門学院大学、2. 東京海上日動調査サービス株式会社)

05 トップアスリートのパフォーマンスに寄与する環境要因の構造化

—特性要因図を用いた探索的分析—

○甲斐 素子¹、工藤 康宏^{2,1}、山田 泰行¹(1. 順天堂大学大学院 スポーツ健康科学研究科、2. 武庫川女子大学健康・スポーツ科学部)

2F3

SEGs1,4,5,6,9 (労働)

13:00-14:30

F会場
(403)

座長 酒井 一輝 (産業医科大学)

01 数理最適化を用いた緊急時の意思決定支援に関する人間工学的研究

—災害時救急外来のシミュレーション実験による検討—

○目片 悠貴¹、濱口 淳²、片桐 英樹¹(1. 神奈川大学、2. 東都大学)

02 UI設計におけるプロセスの可視化と改善～教育ICTを事例に～

○山崎 絵理¹、吉武 良治¹(1. 芝浦工業大学)

03 医療現場における複数のステークホルダーを考慮したエクスペリエンス最適化の研究

○濱中 康佑¹、濱口 淳²、大坪 茂³、中西 美和¹(1. 慶應義塾大学、2. 東都大学、3. 医療法人社団 大坪会 三軒茶屋病院)

04 機械学習による姿勢推定を用いた術者の同一姿勢拘束と身体的負担の評価

○鎌倉 快之¹、竹内 大樹²、酒井 一輝²、谷 直道²、山本 淳考²、榎原 毅²(1. 大阪工業大学、2. 産業医科大学)

05 メタバースを利用した危険体感訓練のあり方に関する考察

—レジリエントな力を身に着けるには—

○鳥居塚 崇¹、矢野 華子¹、片野坂 孝成²、大久保 卓也²(1. 日本大学、2. 株式会社杉孝)

06 デジタルツインを活用したバーチャルフィールドワークの教育効果の検証

—鉄筋加工場を対象とした参加型改善プログラムへの適用と評価—

○山田 泰行¹、甲斐 素子¹、池上 徹²、松田 文子²、申 紅仙³、日比 威¹、細井 咲希¹、仲尾 豊樹⁴、川上 剛²、榎原 毅⁵(1. 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科、2. 大原記念労働科学研究所、3. 常磐大学人間科学部、4. 東京労働安全衛生センター、5. 産業医科大学産業生態科学研究所)

2F4

SEGs2,4,5,6,9 (労働)

14:45-16:15

F会場
(403)

座長 上田 真由子 (追手門学院大学)

01 鉄道運転士を対象とした普段の工夫を振り返り考える研修の実践報告

○芦高 勇氣¹、渡辺 めぐみ²、福馬 浩一¹、大谷 総一郎¹(1. 西日本旅客鉄道株式会社、2. 常磐大学人間科学研究科)

02 新幹線乗務員におけるノンテクニカルスキル訓練の設計と評価手法の検討

○高安 英子¹、千葉 武史¹、藤代 博明¹(1. 東日本旅客鉄道株式会社)

03 初級プラント操作者の操作時における操作ミスと想定されるトラブルリスクの傾向分析

○松原 貴史¹(1. 豊田工業高等専門学校)

04 作業指示における「納得」と「腹落ち」の定量的差異に関する研究

○角田 朋佳¹、鳥居塚 崇²(1. 日本大学大学院生産工学研究科、2. 日本大学生産工学部)

05 ヒヤリハット報告におけるオノマトペおよび修飾語が状況理解に与える影響

○平井 達也¹、鳥居塚 崇²(1. 日本大学大学院生産工学研究科、2. 日本大学生産工学部)

06 AIと協働作業を行う際のAIの返答に求められる要件に関する検討

—円滑なインタラクション構築に向けて—

○加藤 悠汰¹、鳥居塚 崇²(1. 日本大学大学院生産工学研究科、2. 日本大学生産工学部)

2H1

SEGs1,2,5,6,7,8 (移動)

9:00-10:30

**H会場
(405)**

座長 羽深 太郎 (昭和女子大学)

01 サイズと図形複雑性の定量評価によるメーターディスプレイのシンボル視認性

○白木 稜馬¹、石橋 基範²(1. 日本大学大学院、2. 日本大学)

02 歩行者の踏切手前で停止する意識に影響する要因

○鍋木 俊暁¹、佐藤 文紀¹、村越 暁子¹(1. (公財) 鉄道総合技術研究所)

03 タッチパネルディスプレイを用いた運転リスク評価テストと実行機能の関係

○篠原 一光¹、増田 奈央子¹、島崎 敢²、伊藤 倫³、青木 宏文³(1. 大阪大学大学院人間科学研究科、2. 近畿大学生物理工学部、3. 名古屋大学未来社会創造機構)

04 車載情報端末を実装した自動運転バスにおける乗客への情報提供サービスに関する検討

○市橋 由羽¹、小林 大二²(1. 公立千歳科学技術大学 大学院 理工学研究科、2. 公立千歳科学技術大学)

05 HMDによるMR映像を視聴しながらの歩行に関する検討

○盛川 浩志¹、佐藤 健²(1. 東京工科大学、2. 実践女子大学)

06 楽曲の新奇性に着目した自動運転場面での覚醒低下軽減手法

○HSU WEICHIEH¹、石橋 基範²(1. 日本大学大学院、2. 日本大学)

2H2

SEGs1,5,6,7 (移動)

10:45-12:00

H会場
(405)

座長 吉田 智幸 (トヨタ自動車株式会社)

01 車道上における自転車回避時の自動車走行挙動と運転者主観の検討

○三岩 功季¹、堤 成可²、早川 聡一郎¹、池浦 良淳¹(1. 三重大学、2. 香川大学)

02 車両走行振動下での良質な睡眠の実現

ー振動介入による睡眠の質への効果の検証ー

○菅原 朋子¹、久田 伊織²、丸山 可那江²、山口 秀明²、長屋 隆之¹、藤岡 英二²(1. 株式会社豊田中央研究所、2. 株式会社アイシン)

03 走行振動下における頭部左右揺動刺激の仮眠支援効果の検証

○久田 伊織¹、丸山 可那江¹、菅原 朋子²、山口 秀明¹、長屋 隆之²、藤岡 英二¹(1. (株) アイシン、2. (株) 豊田中央研究所)

04 グレアからみた夜間自動車運転時の視認性に関する研究

○関 智衣¹、渡邊 裕²、三林 洋介¹(1. 玉川大学、2. エルゴリサーチ&デザインラボ)

05 A Study of Pedestrians-Autonomous Vehicle Interaction in Virtual Reality: The Effects of Group Dynamics and Vehicle Speed on Crossing Decisions.

○MIN-JHIH SYU¹, Ying-Yin Huang¹(1. Department of Mechanical Engineering, National Taiwan University, Taiwan)

2H3

SEGs1,3,5,6,7,9 (コミュニケーション)

13:00-14:30

H会場
(405)

座長 長谷川 智之 (名古屋市立大学)

01 技能伝承を目的とした姿勢安定性に基づく動作解析と教育訓練効果の検証

—左官工の動作分析と習熟方法の検討—

○田村 泰史¹、嶋田 唯一²、高橋 めぐみ³、横山 清子⁴(1. 株式会社浅沼組、2. 株式会社シーデックス、3. 株式会社キャンパスクリエイト、4. 名古屋市立大学)

02 現場の安全実践を把握するためのインタビュー設計の検討

—仮想インタビュー分析を通じて—

○西澤 宏員¹(1. 大阪産業大学)

03 脳CT画像読影における医師の熟練度と視線の比較・分析

～横浜市立大学附属病院放射線科との共同研究～

○相原 千紗¹、中村 潤¹(1. 中央大学国際経営学部国際経営学科)

04 キャラクター・エージェントの表情変化に対する選好判断モデルの検討

○高橋 雄三¹(1. 広島市立大学大学院情報科学研究科)

05 動画視聴型学習における見逃し発生による学習内容理解への影響の検討

○唐 沢維¹、蜂須賀 知理²、割澤 伸一¹(1. 東京大学 大学院新領域創成科学研究科、2. 東京大学 大学院情報学環)

06 誤情報への自発的気付きによるメタ認知モニタリングと学習への影響の検討

○黄 舒傑¹、蜂須賀 知理²(1. 東京大学 大学院学際情報学府、2. 東京大学 大学院情報学環)

2H4

SEGs1,4,5,6,7,8,9 (コミュニケーション)

14:45-16:15

H会場
(405)

座長 矢口 博之 (東京電機大学)

01 An Investigation of Indigenous Language Teachers' Intentions to Use Generative AI for Supporting Indigenous Language Instruction

○Chen ChingChung¹, Lee Hsiu-Mei², Chen Zhi-Xuan¹, Lin Tian Sheng³(1. Department of Applied Information Technology, Hsing Wu University, 2. Gueishan Junior High School, Taoyuan City, Taiwan, 3. Department of New Media Communication)

02 何がGUIデザインを「らしく」させるのか？—AHPによる認知的評価軸の探索—

○覃 振東¹、木村 司¹、篠原 一光¹(1. 大阪大学 人間科学研究科)

03 XR空間における読書体験に背景環境の与える影響

○大平 悠介¹、伴地 芳啓¹、久保田 裕¹、永島 秀文¹、河合 隆史¹(1. 早稲田大学)

04 オンライン会議参加者の状態推定に向けた低負担多次元ヒューマンセンシングの提案と予備的評価

○大須賀 美恵子^{1,2}、竹内 大樹³、鎌倉 快之¹(1. 大阪工業大学、2. (株) ウエルネスラボ、3. 産業医科大学)

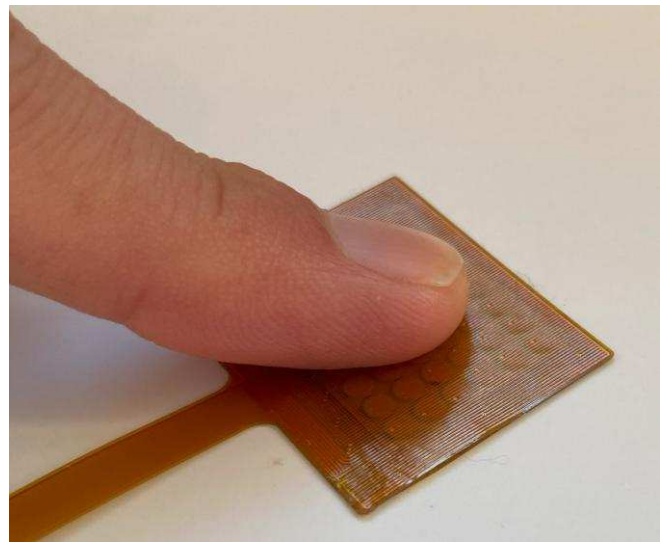
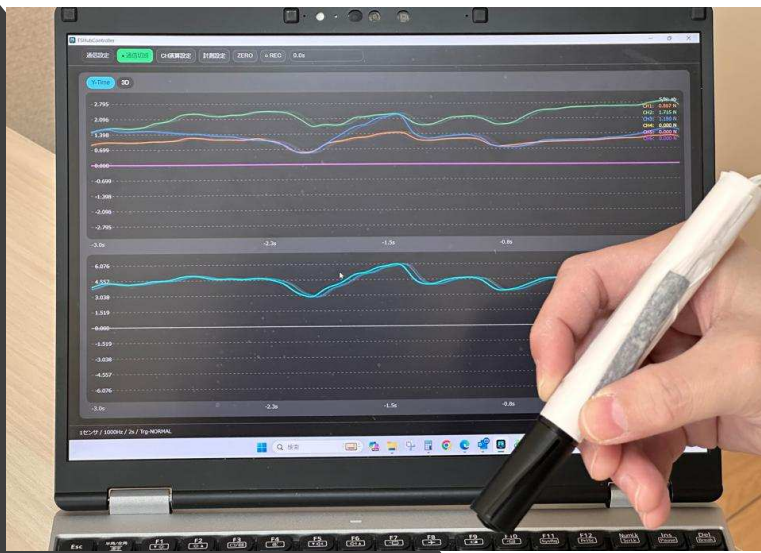
**05 観光SNSショート動画視聴の「見る・感じる・選ぶ」プロセスの解明(1)
—視覚的注意に着目して—**

○浅見 優衣¹、田邊 健爾¹、高野倉 雅人¹(1. 神奈川大学)

**06 観光SNSショート動画視聴の「見る・感じる・選ぶ」プロセスの解明(2)
—感情状態に着目して—**

○田邊 健爾¹、浅見 優衣¹、高野倉 雅人¹(1. 神奈川大学)

機器展示・広告



人間工学・HMI・ロボティクス

シンプル&ソリッドな計測器

オーダーメイド実験装置

力の計測技術をベースに、計測ソリューションメーカー



京都市下京区中堂寺南町134京都市リサーチパークASTEM棟8F

お問い合わせ>
info@sugino-h.com

姿勢と健康を考える情報誌

ポスチャー

POSTURE

しせいと生活

日々の生活の中で、つい忘れてしまいがちな姿勢。しかし、姿勢が私たちの健康や生活に与える影響はたいへん大きいといえます。そこで、姿勢に関心を持ち、重要性を再確認してもらうために本誌はつくられました。

- 毎号姿勢に関する特集テーマを定め、健康との関連を多面的に研究しています。
- 自治体の健康施策や施設のルポ、姿勢と健康に関するトピックスなどもお届けします。

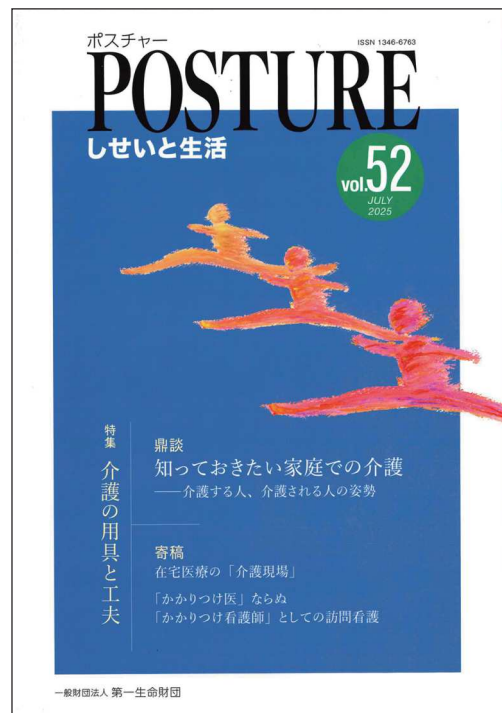
- 第31号 特集1 / 加齢と姿勢
(2008.5) 特集2 / 高齢者の身体と心
- 第32号 特集1 / 膝の悩みと姿勢
(2008.11) 特集2 / 膝の痛みへの対応
- 第33号 特集1 / オフィス環境と姿勢
(2009.5) 特集2 / 新時代のオフィスを考える
- 第34号 特集1 / 住まいと姿勢
(2009.11) 特集2 / 姿勢とユニバーサルデザイン
- 第35号 特集1 / 子どものたくましさを育てる
(2010.5) 特集2 / 子どものたくましさと教育
- 第36号 特集1 / 運動器を健康に保ち続けよう
(2011.5) 特集2 / ウォーキングと健康
- 第37号 特集1 / 姿勢とエコノミークラス症候群
(2011.11) 特集2 / 大規模災害と不活動
- 第38号 特集1 / 姿勢と筋力
(2012.5) 特集2 / さまざまな筋肉の働き
- 第39号 特集1 / 子どもと遊び
(2012.11) 特集2 / 子どもの成長と遊具・玩具
- 第40号 特集1 / 睡眠と健康
(2013.5) 特集2 / 質がよい睡眠とさわやかな目覚め
- 第41号 特集1 / 子どものすこやかな発達を考える
(2014.5) 特集2 / 子どもの発達とその支援
- 第42号 特集1 / 障害者スポーツの現状と課題
(2015.5) 特集2 / スポーツと障害
- 第43号 特集1 / 健康寿命をのぼそう！
(2016.5) 特集2 / 健康寿命をのぼすためのポイント
- 第44号 特集1 / ロコモ予防と運動
(2017.5) 特集2 / 靴と健康
- 第45号 特集1 / 進化するヒト型ロボットと姿勢
(2018.5) 特集2 / ロボットによる動作や姿勢の支援
- 第46号 特集1 / 「立つ」を究める
(2019.6) 特集2 / 「立つ」を支える技術
- 第47号 特集1 / 東京オリンピック・パラリンピック
(2020.7) 特集2 / スポーツを楽しむための発想と技術
- 第48号 特集1 / 姿勢から考えるウィズコロナ時代の健康学
(2021.6) 特集2 / ウィズコロナ時代の健康生活を考える
- 第49号 特集1 / いま、子どもたちの姿勢が危ない！！
(2022.6) 特集2 / ウィズコロナ時代

- 第50号 特集1 / 姿勢から読み解く身体からのメッセージ
(2023.6) 特集2 / いますぐ実行！ 基礎から学ぶ姿勢改善策

- 第51号 【特集】生活と快眠のくふう
(2024.7)

- 第52号 【特集】介護の用具と工夫
(2025.7) <Special Interview> 小笠原清基

日常生活の中でも健康と体力を養う小笠原流
<鼎談>知っておきたい家庭での介護
——介護する人、介護される人の姿勢



● A5判 ● 頒価 / 500円 ● 年1回 (7月) 発行

お申込み、お問い合わせは

一般財団法人 **第一生命財団** まで
〒102-0093 東京都千代田区平河町 1-2-10
平河町第一ビル 2階
TEL / 03 (3239) 2312 FAX / 03 (3239) 2315
E-mail : info@dl-foundation.or.jp
URL : https://dl-foundation.or.jp

月額1,490円



無料

17言語が
学び放題

社会のニーズの高いIT人材を目指す

プログラミング学習



プログラミング経験のない初心者でもゼロから学べる！
社会人エンジニアと同じ基準で自分のスキルを可視化できる！

学習の流れ



約3分の動画で
自己学習



演習課題でコードを
入力・実行



レベル別の問題集で
トレーニング



スキルチェックで
技術力を可視化

講座画面



手を動かしながら学習できるeラーニング

- Step 1 動画視聴で学習する
- Step 2 補足テキストで理解を深める
- Step 3 コードを書く
- Step 4 実行して結果を確認する

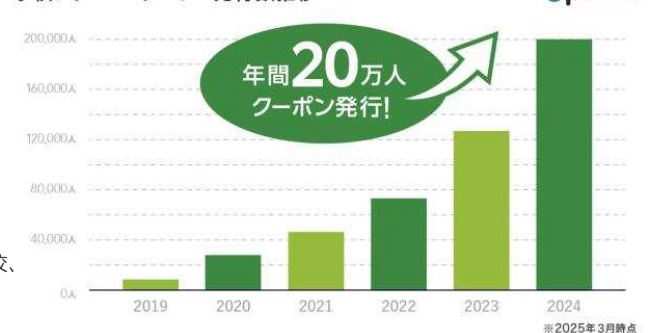
2024年度利用実績

申請校 **648**校 クーポン発行 **20**万人

利用実績 の例

北海道大学、京都大学、東京科学大学、横浜国立大学、大阪公立大学、
山梨大学、九州工業大学、山形大学、中央大学、東京電機大学、日本大学、
東京工科大学、同志社大学、関西大学、立命館大学、近畿大学、龍谷大学、
京都女子大学、灘高等学校、筑波大学附属高等学校、広尾学園中学高等学校、
埼玉県立春日部高等学校、大阪府立高津高等学校など

学校フリーパスクーポン発行数推移



先生からの申請で月額1,490円（税込）のpaizaラーニングが完全無料で利用できます



マルチデバイス生体計測システム

HuME

ヒューム

Human Metrics Explorer

低負担ウェアラブルで、同期計測と統合解析を簡単に



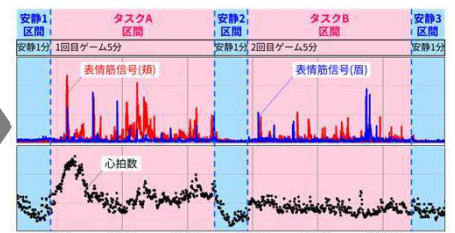
個別のウェアラブルデバイスで装着負荷が少ない
複数機器の同期計測と統合解析がGUI操作で簡単
計画から計測、解析までをソフトでトータルサポート



計画



計測



解析

本製品は医療機器ではありません。

株式会社 島津製作所 スタートアップインキュベーションセンター

〒604-8511 京都市中京区西ノ京桑原町1 <https://www.shimadzu.co.jp/products/sic/hume/index.html>

TEL 075-823-1939 E-mail sic_hume@group.shimadzu.co.jp



BC-Body

【マーカレスモーションキャプチャー】

OptiTrack®

【光学式モーションキャプチャー】



BC-BODY

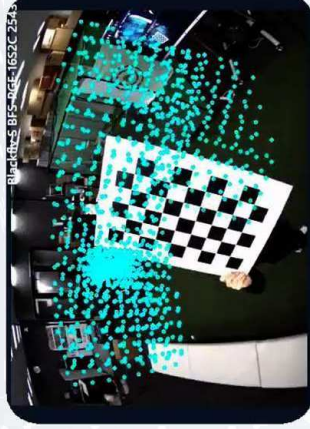
新しい日本製の

“マーカレス”モーションキャプチャー

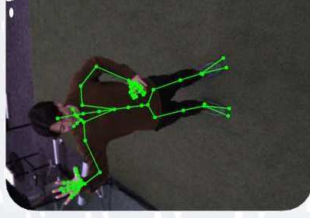
BC-Body (ビーボディ)は、マーカ―やセンサーを装着せず、リアルタイムに骨格検出が可能なマーカレスモーションキャプチャシステムです。

画面内に入るだけで、すぐに計測がはじられ、解析評価ソフトウェア「SKYCOM」を使えば、計測しながらリアルタイムに動作の解析が可能です。

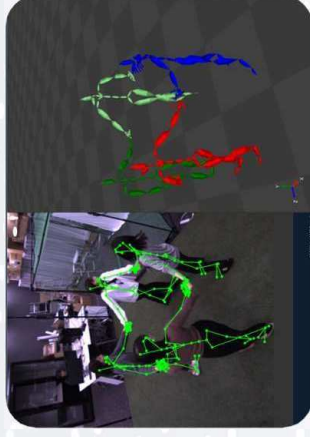
服装の制限がないので、製造現場の動作評価やリハビリ、スポーツの評価もより自然な状態で計測することができます。



簡単なキャリブレーション



フィンガートラッキング標準搭載



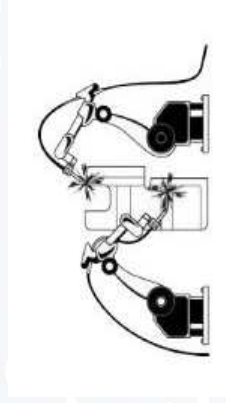
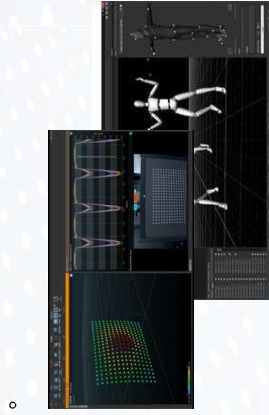
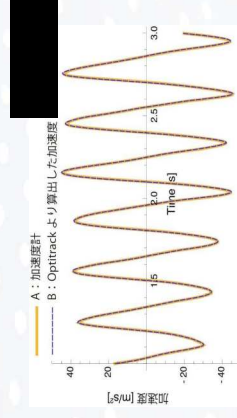
複数人も同時にトラッキング

OptiTracke

～0.1mmの高精度計測で物や人の三次元座標を瞬時に解析～

μ (ミクロン) レベルで校正されたり様々な大学や研究機関で実績があり国内累計500セット以上納入。論文も多数ございます。又、導入価格もミニマム100万円～構築可能です。

取得した座標をリアルタイムで、外部へ吐き出し可能です。無償のSDKやサンプルコードがあり、様々なコードに対応しております。
費用単位: 1000円/1点
(C,C++, LabViewe、MatLab、Pythonなど。)



工業計測・動作解析・制御様々な分野で活躍！！

デジタルヒューマンを利用したプロセス検証

IPS IMMA

Intelligently Moving Manikin



- 体格差による作業性を一括で解析
- デジタルヒューマンの姿勢を自動計算
- 到達性、視認性、組み立て性を可視化

販売元



研究開発



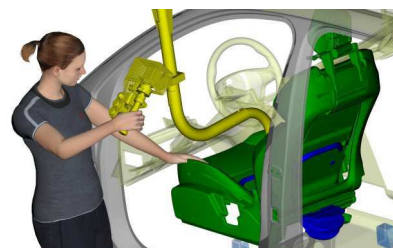
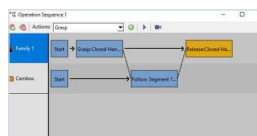
生体力学モデルとコンフォート機能

- リジッドボディとしてモデル化された骨格
- 82のリジッドセグメントと162のDoFが階層ツリー構造で相互に接続
- 回転・ボールジョイントを使用した関節が人の可動域を制限しシミュレート
- デジタルマネキンが姿勢を自動生成
- 干渉回避経路計算ロジック
- サポートポイントで姿勢バランスを自動分散



作業手順の再現

- 一連の作業手順シーケンスの定義
- 移動、姿勢、把持、視点、モノの動きを設定
- シーケンスシミュレーション計算と再生



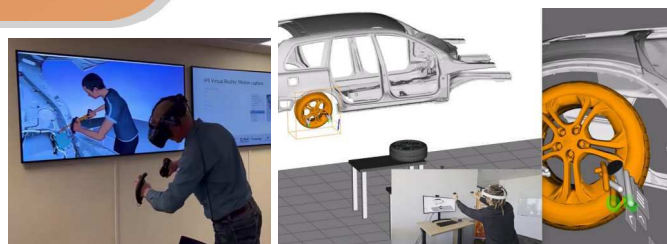
評価と分析

- 体格差の作業性検討
- エルゴノミクス評価 RULA, REBA, EAWSスコア, Force Atlas, Lower Back Risk Analysis, OWAS
- 作業スペースのポリウム化



VR評価

- VR空間で作業性の確認・体験・作業手順作成
- 周辺パーツとの接触フィードバック
- アバター機能によるリアルタイムエルゴノミクス評価



flexstructures GmbH 国内総代理店



デジタルエンジニアリング事業本部
135-8110 東京都江東区豊洲3-2-20 豊洲フロント
TEL:03-5859-3012 E-mail:eng-sales@scsk.jp

THEIA

Markerless



マーカー不要な3次元モーションキャプチャシステムで使用できるカメラは複数種類あり
低価格構成も組むことが可能です!!

光学式・3次元/2次元マーカーレス・IMUセンサ式等の各種機器を取り揃えておりますので、お気軽にご相談ください。

XSENS

IMU センサ式
モーションキャプチャ



床反力計 フォースプレート

KISTLER

measure. analyze. innovate.

BERTEC

設置工事も弊社で行いますので、
お気軽にご相談ください。

◆TELEMED 超音波測定器

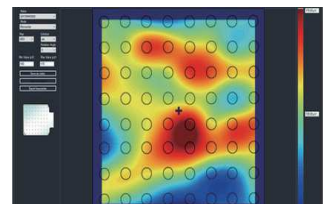
- ・コンパクトな超音波測定器。PCとUSB接続。
- ・モーションキャプチャー、高速カメラ等と同期計測が可能
- ・テーピングで固定できるプローブにも対応!



◆OTBIO 多点筋電計測システム

計384チャンネルの電極を装備した多点筋電計測システム

- ・これまでにない表面筋電位を計測可能
- ・筋内の活動の部位差の測定、活動変位の伝搬速度を算出することができます。



株式会社フォーアシスト



〒101-0054
東京都千代田区神田錦町3-17-14 北の丸ビル2F
TEL: 03-3293-7555 FAX: 03-3293-7556
e-mail: info@4assist.co.jp
http://www.4assist.co.jp





Research Product

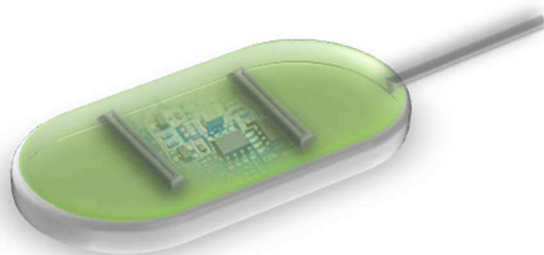
研究機器

本製品は実験研究用です

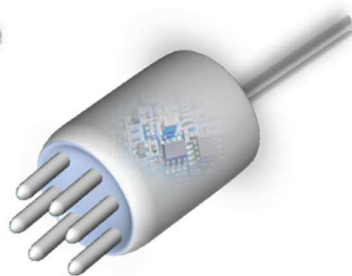
- 多様性、拡張性を備えた生体信号計測機器、研究機器
使用環境に応じた最適なシステムをご提案します
- アナログ・デジタルの設計開発から最適な計測機器、研究機器
アナログ・デジタル回路の設計からソフトウェア開発までサポートします



アクティブ電極



EMG ドライ電極



EEG ドライ電極



固定デバイス・ヘッドキャップ

各種 生体アンプ



ポータブル生体アンプ

EBA-100

- 感度：10mV～0.01mV/DIV
- 低域遮断周波数：DC～100Hz
- 高域遮断周波数：10Hz～3KHz
- DC 駆動

多チャンネル生体ユニット

EMA-100



株式会社ユニークメディカル

・東京営業所 〒201-0003 東京都狛江市和泉本町 2-7-9

Tel (03) 3480-7235 Fax (03) 3480-6147

・大阪営業所 〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路 1-3-26 弥生新大阪第1ビル 5F

Tel (06) 6323-3706 Fax (06) 6325-9126

・九州営業所 〒814-0164 福岡市早良区賀茂 3-17-24 夢ビル 2F







Tel (092) 864-3390 Fax (092) 284-8724



EMR-10

モバイル型 アイマークレコーダ

Made in YOKOHAMA

-  視野カメラ：Full HD (1920×1080pixel) / 60fps
-  検出レート：60/120Hz
-  視野レンズ：55°/82°/112° (交換式)
-  検出分解能：0.1° (60Hz) / 0.2° (120Hz)
-  タブレット運用：無線制御 / モニタリング
-  モーションセンサー：加速度、角速度計測



超小型ポリグラフ 生理による心理の証明

intercross-416

68g

小型・軽量

モニター専用

17時間連続計測

4ch 入力 トリガー 2ch



コネクタ交換で計測項目拡張



intercross-415

90g

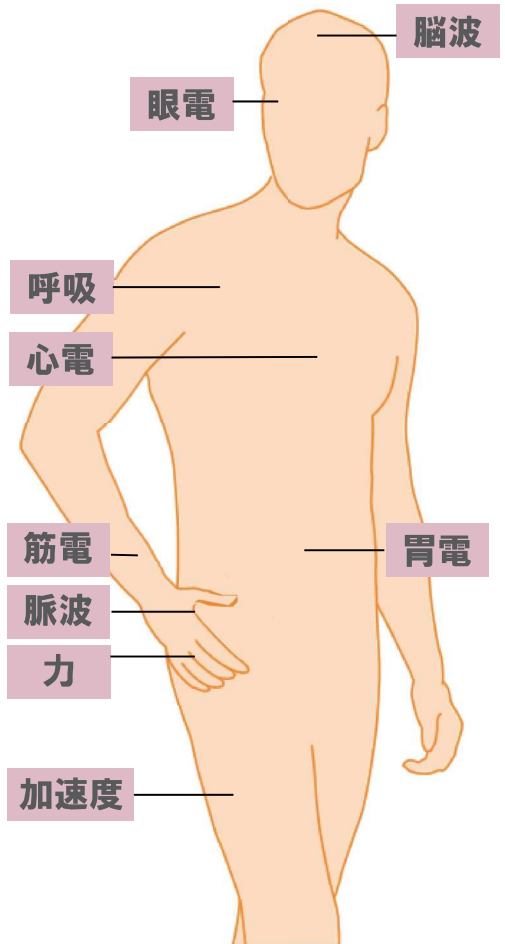
余裕の携帯性

ホルター・モニター両用

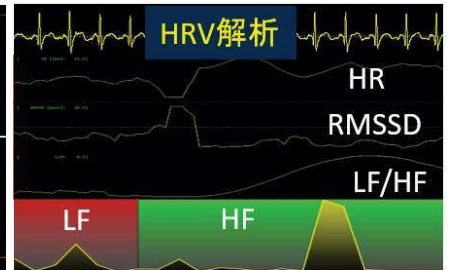
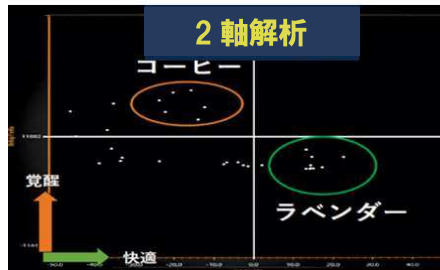
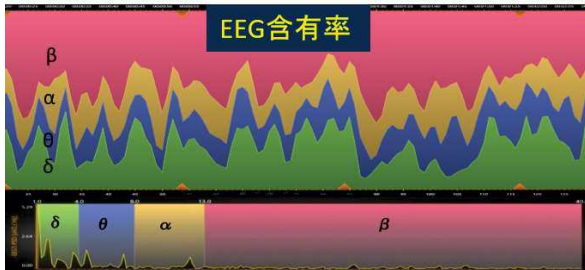
4G ストレージ

28時間連続計測

8ch 入力 トリガー 2ch



リアルタイム解析ソフトウェア



新製品

スマートフォンで電気生理



intercross-417

30g

超小型・軽量

BLE 通信

脳波 / 心電 / 呼吸 / 脈波

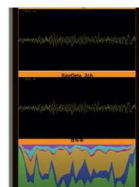


専用アプリケーション

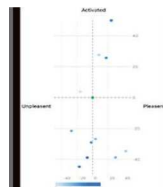
※iOS 専用

アプリにてダウンロードし、

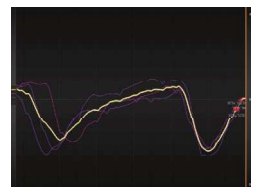
ご利用いただけます



脳波
2ch
解析



脳波 1ch
心電 1ch
2軸解析
評価



呼吸
・脈波



インタークロス株式会社

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 5-14-8-3F

Tel: 03-5953-3930 Fax: 03-5953-3940

po@intercross.co.jp

www.intercross.co.jp



MAS2TENKATA2025415416417SEM1

ヘッドセット型脳波測定装置

TOKAI Orb

広がる脳波の可能性

New!!



TOKAI Orb Pz



TOKAI Orb Cz



TOKAI Orb Jr.



TOKAI Orb
製品ページ



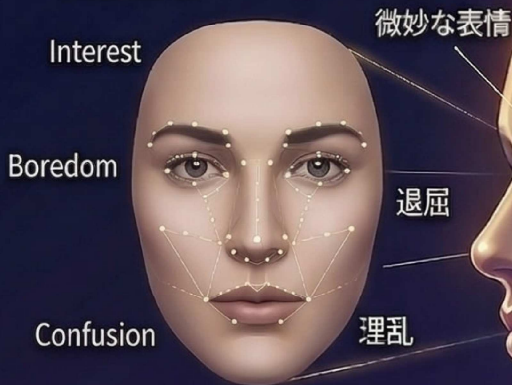
東海光学株式会社

TOKAI Orb お問い合わせ・サポート窓口
E-mail : tokaiorb@tokaiopt.co.jp

人間を知る。心を知る。未来を創る。 Noldusのマルチモーダル解析

表情・行動・生理。全てのデータを紡ぎ、人の真意を解き明かす

表情解析ソリューション



FaceReader



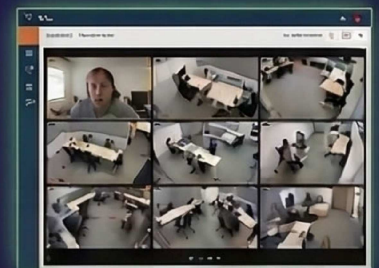
Gaze & Fixation
視線分布ヒートマップ
認知的負荷

RPPG (光電式脈波計測)
・心拍変動
・興奮度

マルチモーダル行動・生体解析
ソリューション
NoldusHub



統合型ビデオ観察プラットフォーム
Viso



データ科学が描く、
無意識の深層



映像・音声・画面記録の同期

応用領域：人間行動解析の実践



HMI評価



ユーザビリティテスト



作業者の健康・安全



臨床心理・行動分析



資料請求(QRコード)

実機デモ実施中! ブースへお越しください

株式会社 ソフィア・サイエンティフィック

Noldus



Ergonomic Movement Assessment

人間工学を「現場で使える知識」に

工場や教育現場では、姿勢・動作・工具操作・視線など、多くの人間工学的要素が安全性や作業効率に影響します。

Dartfish (ダートフィッシュ) は、人の動きを動画で記録し、比較・共有することで、感覚や経験に依存しない評価と議論を可能にします。

動作分析ソフトウェア「Dartfish」
人間工学会 会場ブースにてデモ展示中

▶ 詳細はQRコードへ

※本手法は産業人間工学・技能教育・安全教育への応用を想定しています



Dartfishを使う利点

- 作業姿勢や工具操作を動画で客観的に記録
- スロー再生・比較表示により違いが一目で分かる
- 研究・教育・現場で使える共通データを生成
- OJT、技能伝承、安全教育にそのまま活用可能



価値あるVR創造企業 ソリッドレイ研究所

ソリッドレイ研究所は自社開発のVRソフトウェア“moage（モアジ）”を使用し、産業用VRシステムを特注構築するVR専門会社です。1987年に創立し、今年で40期目になります。ここでは過去に納品した事例のご紹介や、パッケージ製品の一部をご紹介します。

【納入事例】



未来のクルマを疑似体験

2018年にラスベガスで開催された家電見本市「CES」にて、TOYOTA自動車のコンセプトカー「CONCEPT-愛i」の展示協力をさせていただきました。音声、表情、視線、感情推定等の様々なデバイスプログラムを“moage”の前身である“omega”を活用して統合し、未来のクルマの疑似体験を実現しました。



トレッドミル連動VRシステム

量子科学技術研究開発機構様にて、トレッドミル（テック技販社製）に連動したVRが採用されました。当システムはムーンショット型研究開発制度内の「逆境の中でも前向きに生きられる社会の実現」関連研究で活用されています。



VRによる保育室での危険予知教育訓練

兵庫教育大学様にて、保育士を目指す学生を対象とした「保育室での危険予知教育訓練」VRが採用されました。保育現場における乳幼児の事故を3DCGで再現し、保育者の視点からVRを通して体験学習を行います。



セーフマスター（危険誘発体感装置）

「セーフマスター」とは、箱型の躯体の中に組み込まれたHMDを通して、自分の手が事故に遭う“錯覚”をリアルに体験出来るVRシステムです。実際の事故を再現する事が可能で、多くの企業様に安全教育の分野で採用されました。

【お問い合わせ】

価値あるVR創造企業
ソリッドレイ研究所

ソリッドレイ

検索

〒221-0835
神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 2-20-1 YTU ビル 5F
TEL：045-324-6841 URL：www.solidray.co.jp
Email：pro@solidray.co.jp



動きを瞬時に数値化する



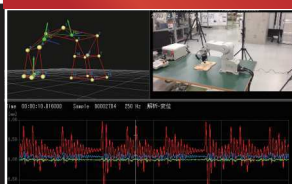
3次元リアルタイムモーション計測システム VENUS3D R

3次元



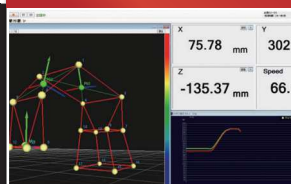
CAD座標等、
ユーザー定義の座標系にて
高精度計測

非接触



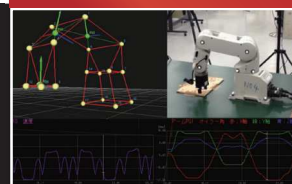
1mm以下の変位から
建築物の振動まで
様々な対象を非接触計測

リアルタイム



リアルタイムで動きを
3次元アニメーション表示し、
解析・数値化

数値化



速度・角度・加速度等、
20種類以上の物理量を
自由に選び、同時に計測

VENUS3D R-Flex13

130万画素 120Hz
寸法(縦×横) 81mm×53.8mm



最大検知距離 **5m**

VENUS3D R-Prime[×]13

130万画素 240Hz
寸法(縦×横) 69mm×69mm



最大検知距離 **12m**

VENUS3D R-Trio

3カメラ一体型システム
寸法(縦×横) 48mm×584mm



最大検知距離 **5m**

VENUS3D R-Prime[×]22

220万画素 360Hz
寸法(縦×横) 126mm×126mm



最大検知距離 **21m**

VENUS3D R-Prime[×]41

410万画素 180Hz
寸法(縦×横) 126mm×126mm



最大検知距離 **30m**

VENUS3D R-Prime[×]120

1200万画素 300Hz
寸法(縦×横) 168mm×168mm



最大検知距離 **40m**

計測結果出力

計測結果出力	CSV, TXT, C3D	算出項目	座標値、速度、加速度、変位、積算移動距離、始点からの距離、2点距離、2点距離変化量、2点距離変化速度、2点距離変化加速度、3点角度、角速度、角加速度、剛体中心座標、剛体6自由度、平面投影2直線角度、平面投影3点角度、オイラー角 等
画像・映像出力	AVI, WMV, MPEG, MOV, PNG, BMP, JPG, JPG2000, TIFF		
3次元アニメーション表示	ポイント・軌跡・スティックピクチャ・残像 変位強調・変位量カウンター		

記載の社名および製品名は、各社の商標又は登録商標です。記載されている内容・仕様等は予告なく変更される場合があります。

販売元
株式会社ノビテック

東京本社 〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿1-18-18 東急不動産恵比寿ビル7階
TEL: 03-3443-2633 FAX: 03-3443-2660

大阪営業所 〒531-0072
大阪府大阪市北区豊崎 3-10-2 I&F 梅田ビル1008
TEL: 06-6292-7050 FAX: 06-6292-7075

名古屋営業所 〒450-0002
愛知県名古屋市中村区名駅 4-24-16
広小路カーテンアベニュー 409
TEL: 052-856-9582 FAX: 052-856-9501



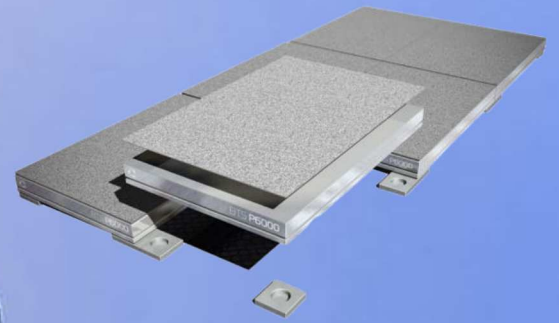
東京本社・大阪営業所で
認証取得

www.nobby-tech.co.jp

お問い合わせは
sales@nobby-tech.co.jp



モーションキャプチャ
マーカー & マーカーレス
ワイヤレス筋電計
デジタルフォースプレート
歩行分析計



BTS Bioengineering

株) メソン



ポータブル脳波計 64/32/16ch/同時複数人



日本人間工学会第67回大会HP

<https://www.ergonomics.jp/conference/2026/>



一般社団法人
日本人間工学会

Japan Human Factors and Ergonomics Society